

ダブルホーム



地域と共に創る「新たなふるさと」

2025年度 活動報告書



文化継承



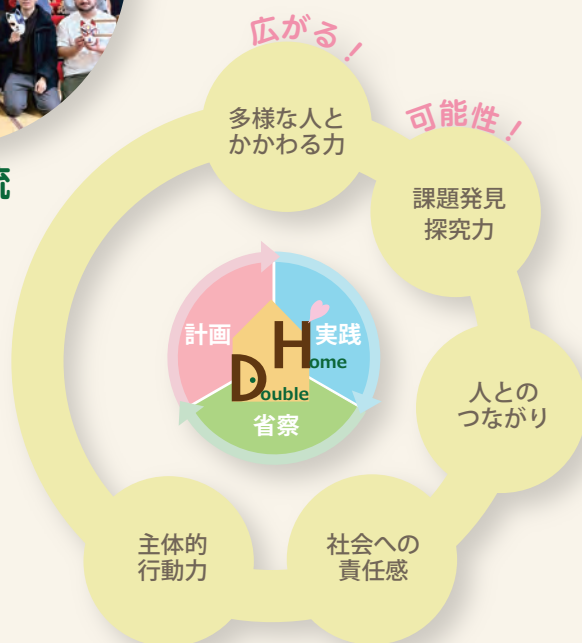
子どもとの交流



国際交流



環境保全



- ✓ 自分たちで考える
- ✓ 自分たちで動く
- ✓ 地域の人と本気で向き合う

教室では得られない経験が、ここにあります



新二郎 & 新二郎 Jr.



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY

はじめに

新潟大学では、2007年度からダブルホーム活動をスタートし、2011年度からは新潟大学独自のプログラムとして継続しています。ダブルホームは、学生たちが所属する学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して、文系・理系・医歯系の区分を越えて「第二のホーム」を運営し、地域活動をとおして人間としての成長を目指すプログラムです。本プログラムは全学に開かれ、学部や学年を越えたチーム活動、その学生たちの主体的取り組みを支援する教職協働、学生が参加時から卒業まで活動を継続できる準正課活動であることが大きな特徴です。近年は、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むことでシチズンシップ（社会に対する責任感）やチームワーク力を育成していくことに重点を置いています。

スタートから18年目を迎えた2025年度は、学生416人、教職員74人(卒業生フェロー5人含む)が参加しました。地域の皆様のご理解とご協力を賜り、地域活動を活発化させることができました。12月20日には、ダブルホームの意義と未来を共に考えるシンポジウムを対面形式で開催しました。学内はもとより学外の皆さまを含めて総勢240人も参加があり、参加者のダブルホーム発展への熱意を実感する一日となりました。

このたび、各ホームが1年間の活動の振り返りについてまとめた報告を編集し、2025年度の活動報告書として刊行いたします。ご協力くださった全ての皆さまに感謝いたします。

新潟大学 教育基盤機構 未来教育推進コア グローカル共修ユニット ダブルホーム支援室

目次

はじめに	01
------	----

ダブルホームとは	
2025 ダブルホーム活動地域マップ	02

2025 年度ダブルホーム活動一覧	03
-------------------	----

各ホームの報告	04
---------	----

04	A	blange
06	B	いろはの風
08	C	かしわっこ
10	D	さんせっと
12	E	アース・アース
14	F	るるに
16	G	暖
18	I	あい
20	K	かもろに
22	L	輪～つながる～
24	N	ねすと
26	Q	Sun Q
28	R	あっとほーむ
30	S	しいたけ
32	T	ほりごたつ
34	U	まほろば
36	V	かわせみ

ダブルホームとは

ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むプログラムです。地域の思いと向き合う中で「自分たちに何ができるか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察することで、これからの社会生活に必要なシチズンシップやチームワーク力を育みます。

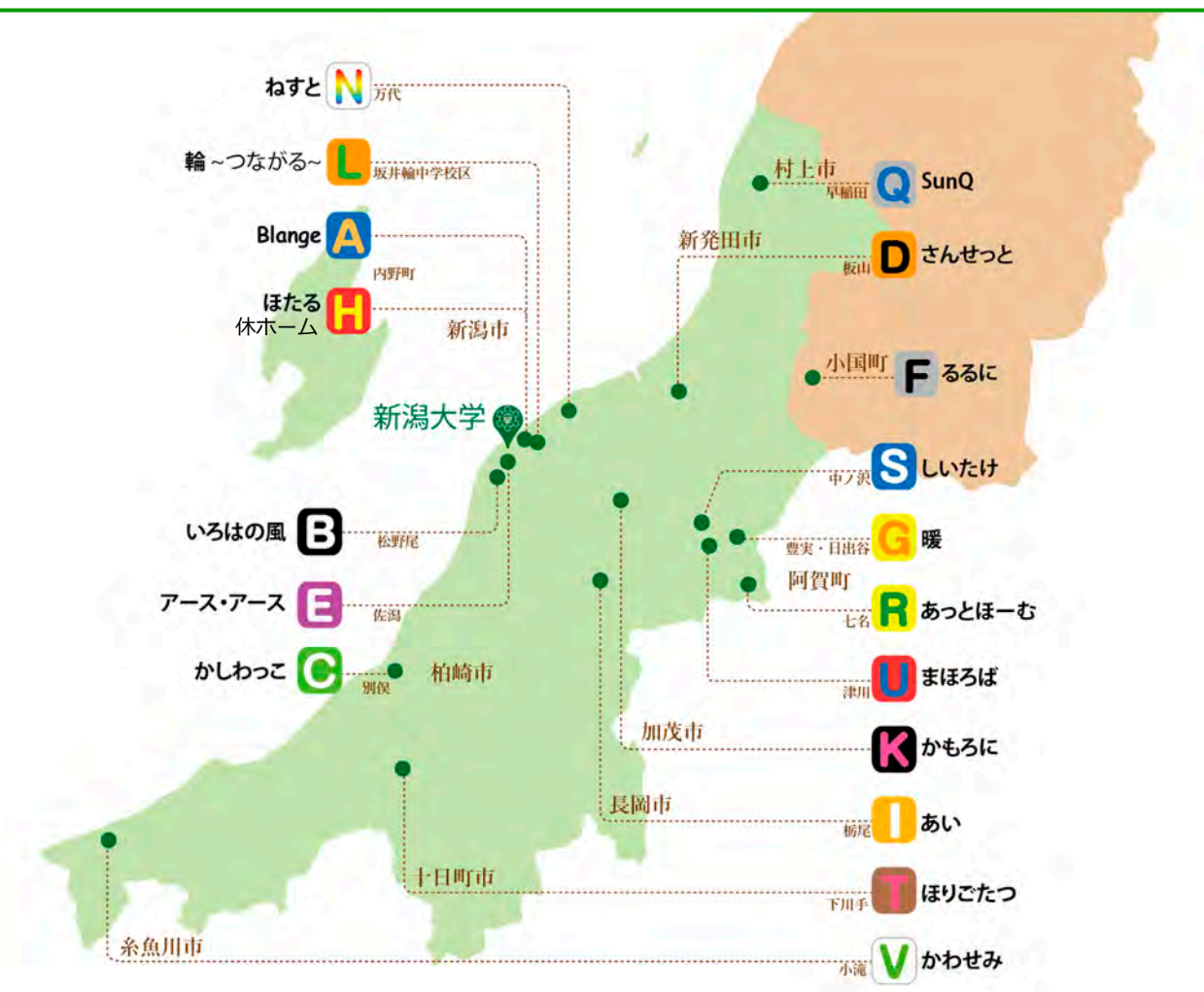


専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対し、総合大学の特性をいかし、専門の枠を越えて学生たちが集まり、学び合う場が「第二のホーム」です。



多様な学問分野・領域の学生が教職員とともに「第二のホーム」を運営し、地域と連携しながら活動を行います。ともに地域課題に取り組む中で人間性を育みます。

2025 ダブルホーム活動地域マップ



2025年度 ダブルホーム活動一覧

ホーム	ホーム名 活動テーマ	活動地域	活動内容
	blange うちのつながりプロジェクト	新潟市西区 内野町 大学南	・梅プロジェクト ・地域探索 ・大学南ヶ丘祭り ・内野祭り ・南心会定例会参加 ・新大ランド ・餅つき大会
	いろはの風 松野尾との絆をつなぐ	新潟市西蒲区 松野尾地区	・地域探索 ・田舟乗船体験 ・夏休み学習会 ・運動会 ・クリスマス会 ・豆まき会 ・知と技と運の競技会 ・反省会
	かしわっこ Come on! イベントで季節を感じる別俣	柏崎市 別俣地区	・地域探索 ・川遊び支援 ・星空音楽会 ・コミセン祭り ・別俣を語ろうの会
	さんせっと 板山の方との交流、そして魅力の発信	新発田市 板山地区	・田植え・筍掘り ・夢祭り ・地域探索・稲刈り ・ヒメサユリ種まき ・キッズサマースクール ・収穫感謝祭 ・ほやほや
	アース・アース 燃えよ赤塚魂、輝け佐潟愛	新潟市西区 赤塚地区	・ハス移植作業 ・灯籠づくり ・佐潟まつり出店 ・赤塚街歩き ・ハーブ園訪問 ・白鳥観察会 ・潟フェス展示 ・潟普請
	るるに つながる ひろがる おぐに	山形県小国町 玉川地区	・熊まつり ・山菜祭り/看板設置 ・畑づくり ・おぐに夏祭り ・新大祭/古町出店 ・芋煮会 ・うぶやマルシェ ・学生発表交流会 ・さいず焼き ・雪掘り ・活動報告in小国町
	暖 学生を主体に豊実・日出谷とより密接な関係性の構築	阿賀町日出谷 豊実地区	・地域探索 ・阿賀町探索 ・新大祭出店 ・キャンドルナイト ・クリーンセンターあがのがわフェスタ出店 ・活動報告と次年度相談
	あい 枋尾の中心であいを叫ぶ	長岡市 枋尾地区	・地域探索 ・とちお祭り ・トチオノアカリ ・ユニホッケー交流会 ・郷土料理体験会 ・手毬づくり体験会
	かもろに 加茂ってすごいカモ！プロジェクト	加茂市	・雪椿祭り ・加茂祭り ・地域探索 ・小学生夏休み企画 ・クリーンセンターあがのがわフェスタ出店 ・ナイトバザール ・カモフリマ ・さいのかみ
	輪～つながる～ 地域とつくる大きな輪・つながる	新潟市西区 坂井輪中学校区	・子ども食堂（春・夏・冬）・地域探索 ・坂井輪まつり ・花植え事業 ・郷土料理研究会 ・餅つき大会 ・振り返り会
	ねすと 万代からはじまる・つなげるプロジェクト	新潟市 万代地区	・大円寺公園マルシェ（春・秋） ・地域探索
	SunQ 早稲田に感謝を伝えよう～	村上市 早稲田地区	・お花見会 ・三吉様参拝 ・しめ縄作り ・夏休み子ども企画 ・天皇様（子ども神輿） ・敬老会 ・収穫祭 ・新大祭出店 ・クリスマスプレゼント大作戦 ・振り返り会
	あっとほーむ そば作りを通じた地域との交流と絆	阿賀町 七名地区	・七福の里祭り ・そばの栽培 ・上川そば祭り手伝い ・地域探索
	しいたけ Oh! 待ちきれない！ 中ノ沢と元気になるSホーム！	阿賀町 中ノ沢地区	・地域探索 ・しめ縄づくり ・かや刈り ・さいのかみ
	ほりごたつ 十日町×しちべえ×美人林 ニほりごたつ	十日町市 松之山 下川手集落	・湿地米しちべえの栽培 （苗代作りー田植えー草取りー稲刈りー稲架掛けー脱穀）、販売 ・ホタル観賞 ・道普請（春・夏・秋） ・さいの神 ・送別会
	まほろば いきいきと輝く津川地区	阿賀町 津川地区	・つがわ狐の嫁入り行列 ・京ノ瀬夏祭り&キッズサロン ・秋のかざふね市 ・津川駅物産販売会 ・留学生・高校生との交流
	かわせみ 地域の方々との深い交流と 小滝地区の更なる魅力発信	糸魚川市 小滝地区	・地域探索 ・高浪まつり ・笹寿司作り ・新大祭出店 ・今年度の活動報告



活動目的と概要

私たちAホームでは五十嵐キャンパス近くの内野・大学南ヶ丘地域を拠点に活動しています。キャンパスから徒歩圏内の距離であるため活動回数が多く、地域の方との交流が盛んです。キャンパスが活動地域に近いAホームだからこそ、学生ならではのエネルギーを地域に提供することを目指した活動をしています。主な活動は大学内や活動地域で収穫した梅をシロップに加工し販売や贈呈を行う梅プロジェクトです。

ホームの概要

メンバー構成： 1年生7人、2年生5人、
3年生5人、4年生3人、
教員2人、職員1人、
フェロー1人

活動地域： 新潟市西区内野・大学南

関連団体： 大学南が丘南心会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度
(テスト期間を除く)

成果物・制作物



梅シロップの加工

大学でとれた梅をシロップに加工しました。



試飲会

梅シロップのサイダー割りと
梅の甘露煮です。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の目標は「地域の学生に若々しい力を届けつつ、地域からも元気をもろうという相互関係を築くこと」でした。そしてその軸として梅プロジェクトと地域行事への参加を位置づけました。梅プロジェクトでは、梅シロップの作り方だけではなく、梅プロジェクトが始まった背景や梅の木の管理の方法まで説明できることを目標としました。まず地域の方から直接お話を伺ったことで、活動の背景についてホーム内で共通理解を図ることができました。また、剪定方法や水・栄養剤の頻度などを学び、知識面での理解は深まりました。しかし、実際に剪定や水・栄養剤の投与を行うことはできませんでした。一方で、地域の方の梅の木から梅を収穫させていただき、梅シロップとしてお渡しできたことは、活動を進展できたという点で良い成果でした。地域行事では、大学南ヶ丘夏祭りにおいて他のサークルの協力も得ながら活動を行い、学生のエネルギーをより地域に届けることができました。餅つき大会を通して子ども会とのやり取りが増え、関係を深めることができた点も前進です。しかし、中高生世代との関わりは限定的であり、草刈りや防災訓練も一部参加に留まった点は課題です。

【ホーム運営について】

1. ミーティングの学生参加率の向上

ターム毎に実施曜日を変更し、Zoom参加や議事録共有を取り入れましたが、後半の参加率の改善には至りませんでした。

2. 係間の連携強化

係が決めたことをミーティングで共有する体制を整え、担当者が少ない場合でも活動がスムーズにできるようになりました。しかし、日常的な進捗状況や負担の分散を十分にはできませんでした。

3. ミーティングの質の向上

議題の事前設定や去年の資料をまとめておくことで、話し合いをスムーズに行うことが出来るようになりました。

4. 学生間の仲を深める活動の再開

学生間の繋がりを強化するため、以前実施していた行事の再開を企画しましたが、会場を確保できず断念しました。

活動を通して学んだこと

ダブルホームの活動を通して、コミュニケーション力の大切さを学びました。地域の方との対話やホーム内で活動する先輩方の姿を間近で見ていて、その重要性を強く感じました。今後もその力を高めていけるように頑張りたいです。

高橋 明花（農学部1年）

ホーム運営に携わる中で、チームで同じ目標を持つことの大切さを学びました。方向性を定めたことで今後の土台を築くことができたと感じています。これからも一人ひとりの想いが尊重され、やりがいを感じながら活動できるAホームであってほしいと思います。

渡邊 桃子（歯学部3年）

メンバー同士の意識共有の大切さに気づかされました。今年は新大ランドをAホーム主体で行う初の試みもあり、今一度ホームの方向性や活動の優先順位などについて話し合う中で、メンバーの多様な意見を知ることができました。来年は、これらを既存活動につなげる新たな試みに力をいれていきたいです。

吉田 菜美（農学部2年）

組織を運営することの難しさを実感しました。新しくホーム長となり活動する中で、イベントの企画・運営やホーム内の方向性や意見をまとめていくことの大変さを感じました。来年度もAホームをまとめ、先導し、発展できるよう努めたいと思います。

矢板橋 天（教育学部2年）

今後に向けて

1. 梅プロジェクト

今年度は管理方法を学ぶことはできましたが、実践面では十分とは言えませんでした。来年度は水やり当番や年間の予算配分を見直し、肥料や栄養剤等を確保した上で計画的な梅の木の管理を行います。また、梅プロジェクトをさらに発展させ、作った梅シロップをサイダーやお湯で割った飲み物を新大祭で販売することを目標とします。

2. 学生間の交流

以前は行っていた学生間の交流会を開催することを目標とします。開催する場所に関しては、地域の方から紹介していただいた新たな場所を活用させていただく予定です。このような学生間の交流を通して学生間の繋がりを深め、活動の参加率向上につなげていきます。

3. 新大ランドの開催

以前まで利用させていただいた会場が使用不可能になってしまったので、新しく内野町大学南ヶ丘自治会館をお借りし、活動を実施する予定です。それにともない広報方法も見直し、より多くの方に参加していただける工夫を行います。

活動地域より

今年度も様々な行事にご参加いただきありがとうございます。なかでも皆さんが成長していく姿が見られて嬉しく思います。自治会長が交代した中、実施された餅つき大会も、多くの方にご参加いただき成功できました。ダブルホームがより活発になることを願っています。

新潟市西区大学南 南心会 遠藤 弘技 様

担当教職員より

今まで以上にイベントの実施や企画の場面で地域の方と協働しつつも、リードできるようになったと思います。個人的にダブルホームは「失敗することができる場」と考えているので、これからも失敗を恐れず、自分たちがやってみたいことにどんどんチャレンジしてください。

総務部人事課 布施 尚大

活動記録（2025年4月～2026年3月）

4月 大説明会

5月

6月 梅プロジェクト（収穫）
まち歩き

7月 梅プロジェクト（加工）
地域活動中間報告会

8月 大学南が丘夏祭り

9月 内野まつり

10月 新大ランド

11月 梅プロジェクト（贈呈式・試飲会）

12月 餅つき大会
ダブルホームシンポジウム

1月

2月

3月



10月11日 新大ランド



9月13日 内野祭り



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 7人、
3年生 5人、4年生 6人、
教員 2人、職員 2人

活動地域： 新潟市西蒲区松野尾

関連団体： 松野尾地域コミュニティ
協議会

ミーティング： 平日昼休み週 1回程度

成果物・制作物



8月9日 夏休み学習会
手作り風鈴



12月6日 クリスマス会
手作りクリスマスリース

活動目的と概要

B ホームは西蒲区・松野尾地域で、子どもたちや地域の方々に向けたイベントの企画・運営を行っています。私たちの活動目的は「松野尾との絆をつなぐ」ことです。地域の方々の想いを大切にしつつ、学生のアイディアも取り入れることで、学生と地域のつながりを深めることを目指しています。田舟乗船体験やまちあるきを通じた地域学習から、夏休み学習会やクリスマス会など季節ごとのイベントまで、幅広い活動を展開しています。活動中は学年や立場に関係なく、互いに協力して運営を進めることで、地域への理解や関心も高めています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

①活動以外の地域のイベントへの参加

既存の活動は企画・運営を行えましたが、活動以外の地域イベントに参加することはできませんでした。その理由として、まず地域でどのようなイベントがあるのかを知る機会がなかったこと、さらに既に7回の活動を実施しており、予算や時間の制約から参加が困難であったことが挙げられます。地域内でのコミュニティを広げたり、自ら地域で起きていることを調べたりといった活動の前段階の課題があり、地域の方々との関わりや情報収集をより意識する必要がありました。

②SNSの活用

Instagramを利用してほとんどの活動の様子を発信することができました。しかし、Instagramの発信によってイベントの参加者が増えたといったことは実感できず、松野尾地域の方々に向けた効果的な発信は行えませんでした。今後は発信する回数を増やすとともに、松野尾地域の方々にB ホームの公式Instagramの存在を知らせる場を設けることが重要です。

【ホーム運営について】

今年度は、「毎週行っているミーティングの学生参加率を上げる」「新加入生参加後に交流会を行い、ホーム内で学年を超えた親睦を深める」「イベントごとに、各学年混合の活動別縦割り班を組織し、上級生のリーダーシップのもと、下級生を中心に主体的に活動できる機会を確保する」の3点を活動目標に掲げ、ホーム運営を行いました。

今年度は「役割の見直しをし、一人一人が役割を持てる体制を整える」ことを目標としました。そのため運営面では、年度初めに各活動の運営メンバーを決め、誰がどの活動をメインで運営するかを明確にしました。しかし、決めた役割にもかかわらず全員への情報共有が不十分で、ミーティングへの参加が少ないことで、負担が偏る場面が多くありました。原因としては、年度初めの決定だけではその後のフォローが不十分だったこと、指示系統が明確でなかったこと、運営メンバー専用の情報共有ツールが整備されていなかったことなどが挙げられます。また、運営メンバーが中心となる一方で、他のメンバーが関わる機会が少なかったため、活動全体の連携や効率にも課題が見られました。しかし、ミーティングに参加できない人も企画の意見を出せるよう、Googleフォームを作成して自由に回答できる仕組みを整えた点は、今後も継続して活用していきます。

活動を通して学んだこと

地域の方から行事開催の背景についてお話を伺った際、地域行事は単に楽しむだけの場ではなく、人々のつながりを強固にする場であることが分かりました。この経験から、地域行事を通した人々の交流の重要性を学ぶことができました。

瀬戸 結楓（創生学部 1 年）

私が今年度の活動で最も印象的な活動は、松野尾地域運動会です。運営をするだけでなく、学生も一緒になって競技を楽しむことで地域の一員になれたように感じました。来年度も地域と共に活動していきたいと思っています。

佐藤 ほの莉（教育学部 3 年）

子どもだけでなく、大人も一緒になってコミュニケーションを取りながらイベントを盛り上げている様子を見て、松野尾地域の方々の強い絆を感じました。自分たちで企画・準備した内容を多世代の方々に楽しんでもらえることに大きなやりがいを感じます。

竹内 空（農学部 2 年）

SNS を用いたコミュニケーションが身近である現代において、地域の人々と対話をする機会は非常に重要だと感じました。この特性を活かして新たな発見・学びを得ながら、今後の地域社会を参加者・地域と共に考えていければと思います。

島守 快聡（人文学部 4 年）

今後に向けて

「松野尾との絆をつなぐ」を目的に、今後はより多くの地域団体と連携を取っていこうと考えています。現在はコミュニティ協議会とのつながりしがなく、私たちが地域の抱える課題や思いを知る機会がありませんでした。そのため、松野尾にある企業や推進団体と座談会を開いたり、小学生と遊びを企画したりすることで地域との交流を増やしていきます。

また、今年度は多くの新入生の参加により、さらに循環した役割分担を行うことが課題としてあげられました。来年度以降は、情報共有を意識した組織基盤を作るとともに、全員が目的を意識した責任ある行動を心掛けます。

さらに、Instagramを利用した広報活動をより積極的に行い、Bホームの存在を地域に広めることで、交流のプラットフォームを作っていこうと思います。最終的にはBホームと地域の方がお互いの名前や顔を覚え、信頼できる関係を築いていこうと考えています。そして、地域に貢献できる団体として幅広い年代から愛されるチームを目指します。

活動地域より

今年度もあっという間の1年でした。

活動内容にあまり変化はありませんでしたが、毎年継続して参加していただき、地域とのつながりは強くなってきていると感じます。

「継続は力なり」来期も更なる活躍を期待します。

松野尾コミュニティ協議会 事務局 渡辺 幸治 様

担当教職員より

松野尾での活動には多くの子どもたち、地域の方が参加してくださり、交流が広がりました。

1年生も積極的に参加し、先輩学生は温かくサポートするなど、ホームの雰囲気も大変良かったと思います。

今後も楽しく活動に取り組み、地域から多くのことを学んで成長につなげていきましょう。

学生支援課 酒井 健一

活動記録（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月 田舟乗船体験会
- 7 月 まちあるき、地域活動中間報告会
- 8 月 夏休み学習会
- 9 月
- 10 月 運動会
- 11 月
- 12 月 クリスマス会、
ダブルホームシンポジウム
- 1 月 豆まき会
- 2 月 知と技と運の競技会・反省会
- 3 月



6 月 7 日 田舟乗船体験会



7 月 5 日 まちあるき



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 6人、3年生 4人、4年生 3人、教員 2人、職員 2人

活動地域： 柏崎市別俣地区

関連団体： 別俣未来推進部

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



新大祭

会場で厳選された別俣の写真を掲示し、人気投票を行いました



別俣味噌のラベル作成（仮）

味噌仕込みへの参加はできませんでしたが地域の方から製法を教わり、ラベル完成に向けて試行錯誤しています

活動目的と概要

柏崎市別俣地区は、少子高齢化が進み人手不足という課題を抱えています。しかし、地域の方々は地域の未来について真剣に考えながら、地域資源である木造旧校舎を活用したイベントなど、地域活性化に向けた取り組みを精力的に行っています。Cホームは、人手不足の解消、地域活性化に貢献することを目的に、地域イベントのお手伝いに加え、今年度は学生が考えた新たな企画の実行、さらに地域外の私たちから見た地域の良さを地域内外の方に発信することを目指しました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

新たな学生発案の企画に関して、若い人たちを地域に取り込めるのではないかと考え、木造校舎の校庭でのキャンプを企画していましたが、ホーム内での連携不足や計画不足により実現できませんでした。来年度は無理のない範囲で企画し、計画段階からホーム内での情報交換を十分に行い、地域に貢献していきたいです。活動毎に行っているフォトコンテストは規模を拡大し、新大祭や地域イベントの来場者にも参加してもらい、学生が感じる別俣の良さを共有できたのではないかと思います。加えて新たな地域への関わり方として、別俣を紹介するパンフレットと、別俣味噌のラベルを学生主体で作成中です。SNSについてはInstagramの発信を活発に行うことができたと思います。年度初めにはYouTubeを始める予定でしたが、活動を重ねるうちに今運用しているInstagramをさらに活用したいという方向性になりました。今後はリール機能を使うなどいろいろな方法にチャレンジしてみたいと考えています。

【ホーム運営について】

今年度は参加人数を増やしたうえで偏りのない役割分担をすることを目指しました。交流会を行い、人数の増加には繋がっていませんでしたが、ホーム内で意見を出しやすい空間を作ることができたと思います。その成果としてパンフレットと味噌のラベル作成では学年問わず意見を出し合い、協力して作業を進められています。しかし、連携不足で円滑に活動が進められなかったり、提出が遅れてしまいました。既存の係だけに意識を置くのではなく、1人ひとりが責任をもって自分事として考え、誰がどこまでやるのかを明確にして、一体となって取り組んでいきたいです。

活動を通して学んだこと

地域の方々と直接会って交流する、意見を共有することが何よりも大切だということを学びました。初めは少し他人事のように感じていた節がありましたが、現地に何度も行き別侯の方とお話しするうちに活動を自分事として捉えられるようになりました。

吉田 圭吾（工学部 1 年）

良くも悪くも自分 1 人だけではことが進まないことを知りました。ホーム内で考えることが増えてダブルホームという組織を改めて理解しました。教職員、他学年他学部生、地域の方々のつながりによって成立している中での大変さを痛感しました。

下條 心（理学部 2 年）

地域の方々と関わる中で挑戦することが大切だと学びました。地域での活動にはあまり参加できませんでしたが、お会いするたびに新しい取り組みの話を聞き、常に挑戦している姿勢に感銘を受けました。その姿勢が地域を元気づけていると感じました。

岳 みなと（経済科学部 2 年）

活動を通して別侯を支える皆さんの想いや地域の活気を肌で感じることができました。これは学校生活を送るだけでは得られないものだと思います。地域を作り上げ守っていく楽しさや喜びを間近で学ぶ貴重な経験となりました。

飯塚 美咲（人文学部 3 年）

今後に向けて

シンポジウムで地域の方を交えて今後の活動について考えていく中で、Cホームの成果と課題が浮き彫りになりました。今年度はイベントの手伝いだけでなく自主的な企画をしようということで進めてきました。しかし計画不足により頓挫することが多々ありました。活動を始めて3年がたち、Cホームとしての意義をより明確にしていきたい中で、今一度活動について学生一人ひとりが自分事として考えていくことが大切だと感じました。また、別侯では農村RMOの取り組みが進められており、地域の方々が様々な活動を行っている中で、私たちCホームはどのようにして地域と関わり、貢献するのをはっきりさせ、地域の方々にも共有していきたいです。今年度はホームとして能動的に挑戦することができたと感じていますが、参加メンバーが徐々に少なくなってしまう地域活動に参加できる人数も限られてしまいました。今年度の反省を踏まえ、ホーム全体で活動意欲を高めていけるように考えることが必要だと感じました。このホームは比較的新しいホームであり、また地域の方々が学生の挑戦を支えてくださったり、期待してくださっているので、チャレンジしやすい環境にあることが良さだと思います。この良さを最大限に活かせるような活動ができるよう、地域の方との連携を密にしたり、学生間のつながりを深めていきたいです。

活動地域より

「この里を守り」「この里を活かし」「この里で生きる」の地域スローガンに共鳴し、地域イベントに若者・外者目線で行動と意見発信で刺激を与えてもらい感謝しております。今年は新大祭、シンポジウムに参加し、DHの意義を共有でき良かったです。3年目に向け、二年間で培った融和と連携で継続していく活動、新たにやりたいことに取り組んでいきましょう。

柏崎市別侯 桑原 勝一 様

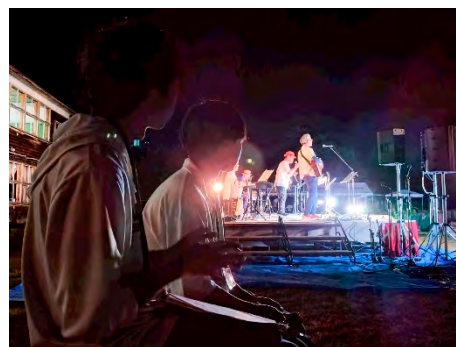
担当教職員より

みなさん、忙しい中十分に活動していたと思います。あとはやりたいことができたか、自分たちで省察する視点を身につけられたかが、教員が評価することより、大事だと思います。

人文学部 園田 浩司

活動記録（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月
- 7 月 地域探索、地域活動中間報告会、川遊び支援
- 8 月 星空音楽祭
- 9 月
- 10 月 新大祭
- 11 月 コミセン祭
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月 味噌仕込み（大雪のため不参加）
- 3 月 別侯を語ろう会



8 月 9 日 星空音楽祭



11 月 2 日 コミセン祭り

**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生 11人、2年生 6人、
3年生 6人、4年生 5人、
教員 3人、職員 1人

活動地域： 新発田市板山地区

関連団体： 夢づくりいたやま

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物**「郷土料理」やろまんま**

5月に開催された「夢まつり」において、板山地区の郷土料理である「やろまんま」をつくりました。

**ヒメサユリちぎり絵**

板山の子もたちとの夏の思い出作りの一端として板山名物ヒメサユリのちぎり絵を作成しました

～板山の方との交流、そして魅力の発信～**活動目的と概要**

私たちは、地域の一員としての自覚を持ち、活動を楽しみながら板山地域の存続に貢献することを目的としています。そのため、地域の方々との心理的な距離を縮めることを意識して活動してきました。具体的には、夢まつりに新加入生を積極的に参加させ、地域の方々の温かみを知ってもらうことや、学生主体のレクリエーションや企画を行い、地域の方々との親睦を深めました。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

今年度の年次計画書に記載した活動地域に関する目標のうち、「よそ者の私たちが地域の方にはない視点で板山の新たな魅力を発見・発信できるようにする」「ダブルホームの学生をより身近の存在として思ってもらえるようにする」「板山の方と楽しく活動することを大前提とする」の3点について達成状況を振り返りました。

一つ目については、少々不十分であったように感じています。今年度は昼の休み時間の削減に伴うミーティング時間の短縮の影響でミーティングを短縮して行いました。結果として、行事内でメンバーそれぞれが発見した板山地区の魅力の共有を行うことや、それぞれの振り返りなどがおろそかになってしまいました。そのメンバー間での魅力の共有の欠如が、広報に向ける情熱の低下も引き起こしていたと感じています。

二つ目と三つ目については、完璧に達成することが出来たと感じています。理由としては、宴会の席など学生や地域の方が参加する席において、前年度までは学生同士で固まることが多く、ごく一部が地域の方々と接するという構図が出来上がっていました。しかし、今年度はメンバー全員が地域の方々の誰か一人を2～4人で囲んで話すという打ち解けた構図が出来ており、地域と学生間の距離を縮めることが出来たと考えています。

【ホーム運営について】

上級生の参加率の低さが問題として挙げられました。例年、風潮として3年生になると急激に参加率が悪くなることが問題になっています。今年度も例外ではなく、特に就活が忙しくなる4年生の参加率が低く、新入生が4年生の顔を見るのが2月に入ってから行事になって初めてという事象が発生しました。また、イベントの参加率だけでなくミーティングの参加率も悪く、参加していたとしても黙って座っているだけであることが多く、過去に上級生たちが大切にしていたことが今年度のホームに受け継がれていないという事象が発生しました。

以上の問題を受けて来年度3年生以上となるメンバー全員がホームの一員であるという志を持ち、意識改革が必要であると考えました。最低限来年度の新規加入生が、夏までにメンバー全員の顔を覚えられることを目標としていきます。

活動を通して学んだこと

今年度はホーム長として活動しました。活動を通じてホームの全員が地域の方々と親睦を深めていくのを見てとてもうれしかったことを覚えています。今度はホーム内の雰囲気をもっと明るくなるように上級生として活動していきます。

山岸 颯馬（工学部 2 年）

家・学校以外の第 3 の居場所があることの大切さを学びました。地域の方にはすんなり悩みを話せることがあったり、私にはなかった視点を与えてくださったりすることがあります。その経験はダブルホーム活動をしているからこそものだと感じています。

金子 悠璃（経済科学部 3 年）

今年度は学部生最後の年となり、一つ一つの活動に重みを感じた一年でした。年度末には地域の方から卒業式を企画していただき、四年間活動してきて、D ホームを選んで本当に良かったと感じています。卒業後も、良い環境に恵まれたことを忘れずに生きていこうと思います。

澤井 奎治（理学部 4 年）

私は 1 年間板山地区で活動をして地域活動への参加や地域の方々との交流を行って来ました。普段の大学生活ではできないような経験を積むことができました。来年の活動も同級生と協力して頑張っていきたいと思っています。

本間 奏多朗（農学部 1 年）

今後に向けて

シンポジウムでの話し合いを通して、次年度以降、以下の 3 点に取り組むたいと考えています。

1 点目は、上級生と下級生のつながりを強固にすることです。上級生が下級生にきちんと向き合い、次の世代に「託した」のではなく次の世代とともに活動していくという意識をもって活動していきます。

2 点目はより有意義なミーティングにすることです。ホーム長が毎回のミーティングの内容を事前に考えるだけでなく、その内容をメンバーそれぞれが事前に把握し、円滑なミーティングを目指します。また、それぞれが地域に対して考えたことや感じたことを共有する時間を大切にします。

3 点目は、負担の分散です。ホーム長に偏りがちなホーム内での雑務を分散するには、担当を決めることが最も重要です。しかしながらそれをするためには見通しがなければできません。そのため、今年度何があったのかをカレンダーにしまとめました。これによってホーム長がどれだけの仕事をしているのかメンバー全員で把握、分散させられるよう行動します。

活動地域より

さんせつとの皆さんには各種取り組みに積極的に関わって頂きました。イベントの手伝いに終始してしまった感があり、申し訳なく思いましたが、板山の風景や伝統に触れて頂いたことで、これからの生き方のちょっとした参考になれば嬉しいです。

新発田市板山地区 本間喜一 様

担当教職員より

一年間、地域活動お疲れ様でした。祭りの手伝いや稲刈り等を通じ、地域の方々の想いに直接触れた経験は、社会に出た際の大きな力になります。地域の皆さんと築いた信頼関係を誇りに、これからも「第2のふるさと」を盛り上げていきましょう。皆さんの主体的な姿勢をいつも頼もしく見ています。

農学部 宇田 稔樹

活動記録（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月 田植え・筍掘り・夢まつり・秋葉山登山
- 6 月 村歩き
- 7 月 地域活動中間報告会
- 8 月 キッズサマースクール
- 9 月
- 10 月 稲刈り
- 11 月 収穫感謝祭、ヒメサユリ種まき
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月 ほやほや
- 2 月
- 3 月 卒業式



11月23日 収穫祭
子どもたちに引かれながら
神輿を担ぎました



10月6日 稲刈り
板山の方々から刈り方を
丁寧に教えていただきました



活動目的と概要

私たち E ホームは、新潟市西区赤塚地区で活動しています。活動の中心は佐潟というラムサール条約登録湿地で、白鳥をはじめとする多様な生物が生息する自然豊かな場所です。私たちは「佐潟と歩む赤塚の会」の皆さんをはじめとする地域の方々と交流や、佐潟・赤塚の魅力発見を目的に活動しています。

地域訪問では行事への参加や佐潟の自然保護への協力、日々のミーティングでは話し合いだけではなくホームメンバー同士の交流を通じて、E ホームらしさを大切にしながらホーム活動の活性化に努めています。

ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 9 人、2 年生 6 人、
3 年生 6 人、4 年生 2 人、
教員 1 人、職員 2 人、
フェロー 1 人

活動地域： 新潟市赤塚地区

関連団体： 佐潟と歩む赤塚の会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



ザリガニ釣り

外来種であるアメリカザリガニの駆除イベント開催に向けて、体験活動を行いました



潟フェスでの展示

2 月 11 日の潟フェスにて、E ホームの取り組みに関する展示を行いました。潟・湿地に携わる人々と交流してきました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は、「①新たな活動の実施と既存の活動の見直し」「②SNSの積極的な活用」という2点を目標として掲げ、活動に取り組みました。

①については、新たな活動としてザリガニ釣りを実施することができました。実際に体験することで、改善点などを見つけることができ、来年度以降のイベント開催に繋がる活動ができたと思います。既存の活動の見直しとしては、屋外の活動で天候不順による活動中止の可能性が予想される場合に代替案を用意しました。代替案により、実施できた活動があったので、来年度以降も続けていきたいです。

②については、昨年度同様Instagramに活動を定期的に投稿しました。その際投稿者を固定するのではなく、活動に参加したメンバーが投稿することで、そのメンバーが活動で得た実際の感想をもとに写真・投稿方法を選択し、様々な形で情報を発信できたと思います。

【ホーム運営について】

ホーム運営については、「ミーティングのZoom導入と議事録作成の徹底」を目標としていました。Zoomを導入したことで、対面のみでは参加しにくかったメンバーがミーティングに参加でき、話し合いをより充実させることができたと思います。また、議事録によって話し合いの内容がホーム全体で共有され、参加できなかったメンバーも次回以降の話し合いに参加しやすくなったり、話し合いの流れを振り返ったりすることができました。しかし、議事録を書き忘れてしまうことや、議事録の保存場所にアクセスしにくく共有が上手くできなかったこともありました。来年度は、ミーティング前に議事録を作成する人を決めたり、作成した議事録を写真で共有したりするなどの工夫をして、議事録作成・共有の徹底をはかっていきたいと思っています。

活動を通して学んだこと

赤塚の方々の温かさや佐潟の自然の雄大さに触れる中で、気づけば赤塚を地元同然と思い活動していました。準備のお手伝いや出店をさせて頂いた佐潟まつりでは、地域の方々の笑顔を前に嬉しくなり、地域と一体となって活動している実感が湧いた感覚は強く心に残っています。

引木 花（人文学部1年）

後輩との距離感の難しさを学びました。DH 活動は学年同士の関わりも魅力のひとつですが、代替わりをしたあとは、過干渉になり過ぎないように見守る姿勢を心がけました。でも困ったら声をかけやすい人であるにはどうすれば良いか、先輩としての在り方を考える1年でした。

酒井 美咲（経済科学部3年）

本年度の活動を通して、つながりの大切さを学びました。新加入生を迎え、外来種対策など新しい活動に挑戦しました。また、潟フェスへの参加を通じて、佐潟だけではなく、新潟市の潟に携わる方々に関わる機会を得たことで、自分たちの活動を見直すことができました。

阿部 紗也加（創生学部2年）

佐潟での活動を通して、地域の方の温かさに触れたり、ホームのメンバーと共に活動する楽しさを実感したりなど、多くのことを学ぶことができました。また、新たな活動に挑戦しようと取り組む後輩達の姿を見て、ホーム活動がより良いものになっていくと確信しています。

久保 七晴（人文学部4年）

今後に向けて

今年度は、ザリガニ釣りや潟フェスでの展示といった新しい活動ができ、来年度以降の活動に繋がる経験や、新潟市にある潟・湿地に関わる人々との交流を通して現在の取り組みをより良くするヒントを得ることができたと感じています。

一方で、地域の方と地域の目指す姿を共有できていないことや学生の主体的な活動にあまり取り組めていないことが課題として挙げられました。これらの点に関しては、シンポジウムでの話し合いにより、「①ホーム内、及びホームと地域との話し合いに特化した場を設定する」「②目指す姿を共有するとともに、ホームと地域との役割分担をはっきりさせる」「③新規活動の創出にこだわらず、既存活動についても運営・企画等に学生が主体的に携わる」という改善策が出され、①に関しては、地域との話し合いの場を既に予定し、来年度主体となる次期2年生のやりたいことをまとめる等準備を進めています。その話し合いで、地域の方と地域の目指す姿を共有するとともに、来年度のEホームの活動を考え、やりたいことに挑戦できるよう基盤をつくりたいと考えています。

活動地域より

今年度も様々な活動に取り組みました。初めて参加した潟フェス（2月11日開催）では湿地の保全活動に加えてダブルホーム活動の実績、成果を市民来場者にPRしました。「学芸を以て性を養ふべし」今後もともに人間性に磨きをかけましょう。

佐潟と歩む赤塚の会（新潟市西区） 涌井 晴之 様

担当教職員より

私見ではEホームイズムは、やりたいことをやってみよう、ということに尽きると思います。その意味で今年度は、次期2年生の「やりたいこと」をホームで話し合おう、地域の方と話し合う場も設けよう、と大きな画期になりました。来年度、皆さんの思いが花咲きますように。佐潟のハスの花のように。

自然科学系総務課 西 洋平

活動記録（2025年4月～2026年3月）

- 4月 大説明会・中原邸見学
- 5月 ハス移植作業
- 6月 新入生加入地域訪問、ハーブ園訪問
- 7月 地域活動中間報告会、灯籠づくり
- 8月 佐潟まつり
- 9月
- 10月 赤塚まち歩き
- 11月
- 12月 ダブルホームシンポジウム
白鳥観察
- 1月
- 2月 潟フェス展示
- 3月 春の潟普請



5月24日 ハス移植作業



12月13日 白鳥観察



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 4人、
3年生 5人、4年生 1人、
修士以上 1人、教員 2人、
職員 2人、フェロー 1人

活動地域： 山形県小国町玉川地区

関連団体： 玉川自治会
一般社団法人メグリバ

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



山菜祭り（6月1日）

山菜や山菜料理の販売のお手伝い



新大祭 外ブース（10月18・19日）

小国町のお土産や芋煮などの販売

活動目的と概要

山形県小国町は新潟県と山形県の県境に位置する、雄大な自然や地域に根付く伝統文化が魅力的な町です。今年度の活動では、小国町玉川地域を中心とする雪掘りやさいず焼きを始めとした地域生活・行事のお手伝い、小国町のお祭りへの参加、新大祭や古町ルフルでの小国町の魅力発信などを実施しました。今後も地道に小国町へ足を運び、外部の団体としてではなく小国町の身内として、より多くの方々に認識いただけるよう活動していきます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動での目標として、①新たな企画の実行 ②他ホームとの連携 ③昨年度までの反省点をいかす、以上3つを挙げました。

①については明確に達成できたと言えます。今年度の新規活動として、10年ぶりの山菜祭りの復活や畑利用などを中心に、Fホームを中心に行う、或いはFホームがいたからこそ実行できる新規の企画を行うことが出来ました。②について、Qホーム様のしめ縄作りに参加する、山菜祭りへの参加をダブルホーム全体に募るという形で達成しました。しかしながら、ホーム間の連携という意味だとQホーム様の活動に一回参加することに留まっており、前例を作ったという意味では前進ですがホーム間の連携を取るという観点だと少々限定的で一方的な形になってしまいました。③は特に新大祭にて達成され、昨年度にまとめた反省点について事前にミーティングで共有し、当日のスムーズな運営につなげることが出来ました。

また今年度活動の特筆すべき点として、一般社団法人メグリバ様の企画する「ふるさとミライカレッジ」への参加が挙げられます。「ふるさとミライカレッジ」は総務省が採択自治体に予算を出し、大学等と地域が連携して地域課題の解決を図るプロジェクトです。小国町も採択自治体であり、ありがたいことにFホームにもお声がけいただき、毎月一回程度他大学生と共に活動に参加しました。小国町での交流範囲の拡大や新たな活動に繋がっています。

【ホーム運営について】

ホーム運営ではメンバーの定着と負担の分散を目標としました。昨年に比べ、新入生の活動参加人数は明らかに多いため、前者については概ね達成できたと言えるのではないのでしょうか。後者の負担の分散については、従前より分散させていたものは分担できていましたが、新たに仕事を割り振るという意味だとあまり達成することができませんでした。この現状は後進の育成という意味でも余りよろしくないと思われるので、次年度以降は少しずつ新入生に仕事を分けていけるような仕組み作りに注力していきたいです。

活動を通して学んだこと

活動当初は、「地域に何をプラスしたらさらに良くなるのか？」ばかりを考えていました。しかし、決して私たちは付与する側ではなく、むしろ現在は地域に溶け込んでいくような感覚を抱いています。内側に立ってようやく見える、小国町独自の素晴らしさを残せる活動がしたいです。

青木 柚月（農学部1年）

地域の多様な立場の方々と関係を築けました。年齢や職業、地域での役割が異なる人々と時間を共有し、価値観や経験に触れました。自然な会話を重ねる中で信頼が生まれ、多様なつながりが地域理解と活動の可能性を広げると学びました。

森下 乙夏（理学部3年）

今年度の活動ではホーム長として地域に関わらせていただきました。リーダーとしての経験は今までほとんどありませんでしたが、周囲に支えられつつ未熟なりにも責任者として役割を果たしていく中で、多くの経験を積み成長を実感できた一年であったように感じます。

星野 泰河（農学部2年）

地域や行事の様子、地域の方との対話を通じて玉川への理解が深まると同時に、私自身の思いや考えも変化した1年でした。4年間の継続的な活動があったからこそこの気づきも多く、Fホームの仲間や玉川の皆さんの想いに触れながら活動した経験はかけがえのない宝物だと思っています。

高村 健太郎（経済科学部4年）

今後に向けて

次年度以降の活動でも、従来行っていた活動を維持しつつ、常に新しいことにチャレンジし続けていきたいと考えております。しかしながら活動回数の制約という意味で考えると、バスの出るダブルホームとしての活動だけでも11回と、現状では活動回数の増加が難しい状況です。限られたリソースの中で活動をより発展させていくために、活動の統合などで可能な限り多くの活動をできるようにしつつ、ふるさとミライカレッジなどを始めとした外部のお力をお借りして地域活動を行えるようにしていくなど工夫をしていきます。

また今年度は、ふるさとミライカレッジや山菜祭り等、今までの活動で培ったつながりが成果として結実した年であると考えています。人脈も確実に広がっていていることも実感しています。来年度においてもこのつながりを断ち切らないよう、また広げていけるよう現地でのイベントの参加や、活動の報告など町全体にFホームの存在を発信していくように努力していく所存です。

また、外部との連携も重要ですが、内部、すなわちホーム間での連携も強化できるよう、改めて動いていきます。

活動地域より

本年度も、地域の共同作業や行事の手伝いに積極的に参加頂きありがとうございました。皆さんの協力により、数年ぶりに山菜祭りを開催することもできました。また、自分たちで植えて収穫して調理した里芋の味はいかがだったでしょうか。来年度も共に玉川を耕しましょう。

小国町玉川地区 清野 典雅 様

担当教職員より

自然と伝統を大切に、地元を愛する方々が暮らす小国町での活動を通じて、皆様は多様な経験を積みながら多角的に考える力を養えます。そして同時に、皆様の活動は地域の活性化にも貢献していることでしょう。このようなウィンウィンの関係を、ぜひ充実した大学生活へと繋げていきましょう！

法学部 李 秉哲

活動記録（2025年4月～2026年3月）

- 4月 大説明会/新入生地域訪問体験
- 5月 熊まつり
- 6月 山菜祭り/看板設置・畑づくり
- 7月 地域活動中間報告会
- 8月 おぐに夏まつり
- 9月 稲刈り祭り
- 10月 新大祭/古町ルフル出店/芋煮会
- 11月 共同作業/うぶやマルシェ
- 12月 ダブルホームシンポジウム/学生発表交流会
- 1月 さいず焼き・新年会
- 2月 雪掘り/協力隊送別会
- 3月 活動報告 in 小国町



6月15日 看板設置・畑づくり



1月11日 さいず焼き・新年会



ホーム 暖 学生を主体に豊実・日出谷とより密接な関係性の構築



活動目的と概要

私たち G ホームは、主に阿賀町豊実地区（日出谷地区での活動は休止中）で地域団体「わけしょの会」の皆様とともに活動を行っています。福島県境に近い中山間地域で、豊かな自然に囲まれながらのびのびと活動してきました。学生同士、教職員、わけしょの会メンバー、卒業生など、G ホームに関わる全ての人たちとの仲を深め合い、皆が笑顔に、そして暖かな関係性を築くことを目的としています。

ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 10 人、2 年生 9 人、
3 年生 7 人、4 年生 3 人、
修士以上 1 人、教員 3 人、
職員 1 人

活動地域： 阿賀町豊実・日出谷地区

関連団体： わけしょの会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

活動目標の達成状況

【地域活動について】

- ①地域活動の回数を増やす。特に、1～3 月に何か活動を作りたい。
- ②G ホーム新聞を作成し、わけしょの会以外の地域住民にも G ホームのことを知ってもらう。
- ③阿賀町で活動する他ホームとの合同交流イベントを計画する。

①について、今年度は冬の活動の開催は実現できませんでした。昨年度から冬季活動を検討していましたが、学生や教職員らと綿密に話し合うタイミングを十分に設けることができず、来年度以降に持ち越しとなりました。

②について、G ホーム新聞を年に 2 回ほど作成し、卒業生やわけしょの会、豊実住民に共有することを考えていました。実際には、新加入生による中間報告書を、今年度第 1 号として共有することができましたが、第 2 号がまだ発行できていません。年度後半以降、②の目標がホーム内で周知されていなかったことを踏まえ、年度目標を皆で随時見直す必要があります。

③について、クリーンセンターあがのがわフェスタ出展（K ホームとの共同企画）、キャンドルナイトへの他ホーム招待（K、R、S ホームより計 5 名が参加）を行うことができました。G ホーム史上初の他ホームとの交流活動であり、ホームを越えた交流の第一歩を踏み出すこととなりました。

【ホーム運営について】

- ①ホーム内での役割分担を徹底し、皆で G ホームを作り上げる。
- ②余裕を持って計画を立て始める。

①、②ともおおむね達成できたと思います。特に、新大祭出店、キャンドルナイトの企画運営においては同時進行せざるを得なかったため、ホーム内で担当を振り分け、実行できました。しかし、作業分担がやや偏っていた点もあったため、来年度は負担の偏りがないように行っていければ良いと思います。

成果物・制作物



キャンドルナイト

G ホーム主体で企画・運営を行い、大成功を収めました



クリーンセンターあがのがわフェスタ

K ホームからお誘いをいただき、G ホーム史上初のホームを越えたコラボ活動実施が実現しました

活動を通して学んだこと

今年度の活動を通して、地域の方々のあたたかさや、阿賀町の自然の美しさを感じることができました。G ホームでの活動、話し合いを重ねていくにつれて、絆が深まったように感じます。この1年間、多くの人との関わりを経て、自分の見聞を大きく広げることができました。

遠藤 健琉（創生学部1年）

今年度はさらに人数が増え、より賑やかな雰囲気です活動することができました。新大祭では多くの方にご来場いただき、地域活動の魅力を発信する良い機会となりました。地域訪問では、阿賀町の方々のあたたかさに触れ、現地の方々と支え合いながら交流することの大切さを学びました。

大塚 あかり（農学部3年）

メインイベント「キャンドルナイト」を学生主体かつ他ホームの連携で行いました。2年時からのダブルホーム参加でしたが、G ホームもわけしょの会の方々と快く歓迎してくださり感謝しています。

橋本 彩夏（経済科学部2年）

ダブルホームの活動を通じて、相手の名前を覚え、呼び合うことの重要性を学びました。何かを成すためには表面的な繋がりだけでなく、腹を割って語り合い、互いに理解し合うことが大切です。そのためのスタートラインが名前を呼び合うことなのだと4年間を通して実感しました。

清水 陽大（経済科学部4年）

今後に向けて

ここ2、3年提起していることになりますが、来年度以降、継続して行うことができる冬季の活動を計画、実行していきたいと考えています。2月上旬を目処に、わけしょの会の皆さんと雪かき作業や雪合戦を行ったり、鍋を囲みながら交流会（卒業生も交えながら実施も可能）を行ったりできるのではないかなという意見をホームミーティングで共有しました。

このほかにも、昨年度の報告書を見返していると、「阿賀町4ホームの連携」という言葉があり、今年度のキャンドルナイトで実質達成することができました。来年度以降も引き続き他ホームを招待していきたいところですが、この他にも他ホームとの交流を実施すると良いのではないかと考えました。（例：阿賀町4ホームで交流するなら、年に一度どこかのホームの活動に参加。4年に一度の持ち回りで開催すると、4年間で卒業するまでに一度はホームの活動に参加できるうえ、自ホームの活動を他ホームに紹介可能。）

以上のような新たな取り組みに挑戦しつつ、過去の先輩方が大切に引き継いできた、地域やホームメンバー同士のより密接な交流づくりを怠らず、来年度も楽しみたいと思います。

活動地域より

いつも明るく元気に来てくれる皆さんに、わけしょの会もパワーをもらっています。今年度はキャンドルナイトの企画から参加してもらいました。これからもどんどん阿賀町豊実地区に訪問いただき、知ってもらい、人と地域のファンになってもらいたいです。

阿賀町豊実地区 佐藤 高博 様

担当教職員より

お寺でのキャンドルナイト、新大祭のキャンドル販売は主体的に動くことができ大きな成果を収めました。さらに今年度は他ホームと共同活動が実現し、また卒業生とのつながりも深まりました。明るく楽しく仲の良いGホームが進化した1年でした。これまで以上に地域での活動の意義を考えて、奥行きと持続性のある活動ができるとよいですね！

工学部 飯島 淳彦

活動記録（2025年4月～2026年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 地域訪問
- 7月 阿賀町探索、地域活動中間報告会
- 8月 新大祭・キャンドルナイト準備
- 9月 同上
- 10月 同上、クリーンセンターあがのがわフェスタ出展、新大祭出店
- 11月 キャンドルナイト
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 活動報告と次年度相談



10月19日 新大祭出店



7月19日 中間報告会



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 13人、2年生 8人、
3年生 6人、4年生 2人、
修士以上 1人、教員 2人、
職員 2人、フェロー 1人

活動地域： 長岡市栃尾地区

関連団体： 栃尾商工会
栃尾観光協会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



大民謡流し

はっぴを着て参加し、
認知度向上に努めました



ユニホッケー

活動目的と概要

私たちIホームは油揚げや雁木通り、上杉謙信旗揚げの地などで有名な長岡市栃尾地域で活動しています。今年度は、特に栃尾の魅力を広めることを意識して、Instagramのアカウントの設立や投稿をはじめたり、チラシを作成したり例年の活動に工夫をして活動することができました。また、新しい活動を企画することで新しい地域の方との交流も増えました。今後も地域の方との交流を大切に、栃尾の魅力を広めるために活動していきたいです。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

Iホームの今年度の目標は以下の3つでした。

1つ目は、「栃尾のイベントに参加し、地域の方々と積極的に交流をする。また栃尾の魅力を発見し、発見したものをSNSを使って発信する。」というものでした。この目標については、Instagramを活用して活動の様子を発信できたほか、昨年参加できなかったイベントにも参加し、初めて関わる地域の方々と交流することができました。しかし、SNS投稿が魅力の発見より活動報告に偏ってしまった点が課題でした。

2つ目は、「前年度遊雪まつりでメッセージカードを渡したように栃尾の方々に栃尾についての魅力を発信したり、また栃尾内でのあいホームの認知度が上がるような企画を考える。」でした。成果としてはとちお祭りで屋台の手伝いを行ったり、大民謡流しで新潟大学の法被を着て踊ったりなどして、認知度向上に貢献できましたが、自分たちで考えた企画が遊雪まつりでの企画のみだったので他のイベントでも積極的に企画を考えていくことを課題だと感じました。

3つ目は、「地域の方とこまめに連絡をとりつつ、地域の方々が楽しめる企画を考え、栃尾の方々の思い出作りに貢献する。」でした。これに関しては、祭りなどの際に栃尾高校の方々と協力してイベントを盛り上げることができたので、結果的に地域に貢献できたと考えています。しかし、当日の段取りが不十分だったことや企画が少なかったことから、今後は主体的に動く意識を高めていく必要があると感じました。

【ホーム運営について】

今年度のホームの組織運営の目標は、「ミーティング時には学年関係なくいろんな人から意見をもらい、意見や活動の目的を共有する。また、係の役割分担では特定の人に集中しないようにする。」でした。

実際に学年関係なくアイデアをもらって企画することができました。しかし、係の役割分担で特定の人に集中しないようにするという目標は達成できず、他人任せになっていたところや、報連相がきちんとできていないところが見受けられました。そのため今後は、ホーム全体で役割を分担する意識を持つこと、わからないことや大変なことがあれば周囲に頼ること、そして誰かが困っていそうなときにはこちらから歩み寄ることを大切にしたいと考えています。また、気になることがあれば気軽に相談できる、ホームの雰囲気づくりを課題として、よりよいホーム運営を目指していきます。

活動を通して学んだこと

地域のニーズ、私たちがしたいこと、実際にできることの重なる部分を見つけることの難しさを学びました。また、活動を継続するためには、準備を早めに行うこと、次の世代のために環境を整えることなど、一人ひとりが主体的に熱意を持って取り組む姿勢が大切だと気づきました。

山下 瑠莉（経済科学部 1 年）

とちお祭りのゲームコーナーの運営から、大民謡流しとみこし渡御に参加しました。遊びに来てくれた子供たちに元気をもらい、歴史ある栃尾甚句で心からの一体感を覚えしました。栃尾のみなさんへの感謝とともに、一回一回が新たな思い出と栃尾への愛につながることを実感します。

笹原 知優（工学部 3 年）

今年度の活動では他のホームと参加する機会がいくつかありました。ただ、その時に他のホームの活動状況や課題について話し合う時間はあまりなかったです。それぞれのホームが抱える課題は似ていることもあると思うので、来年度はもっと他のホームと話し合う機会を増やしたいです。

北澤 和樹（工学部 2 年）

今年度は、他ホームとの意見交換からホーム運営の重要性に気づかされました。特に活動ごとのマニュアルを作成することは、活動の継続にもつながるのでぜひ実行してほしいです。

川野 由歩（経済科学部 4 年）

今後に向けて

今後の活動でも、栃尾の魅力を広めることを目的として活動していきたいと考えています。そのために、例年の活動を去年と同様に行うのではなく、一回一回の活動の目的を明確にしてそれに沿った企画をしていきたいと思います。そして、受け身ではなく主体的に活動に取り組むことが大切だと感じました。また、今年度の活動の中で新しい繋がりを作ることができたので、来年度以降の活動ではこれを次に繋げていきたいです。

ホーム運営については、話し合いや連絡などすべて早めに行うことの重要性を感じました。特に、地域の方への連絡とホームへの連絡を確実にするために報告・連絡・相談を意識していきたいです。それらの解決策や話し合いの効率化として活動ごとのマニュアルの作成をしていきたいと考えています。また、誰か一人が負担を負わないような仕組みや困ったときに周りを頼ること、頼れるような関係や雰囲気作り、他人任せにせず主体的に活動することが重要だと実感しました。今年度の活動の中でホーム運営の課題が多く出たので、それが引き継がれないように仕組み等の改善に努めていきたいです。

活動地域より

栃尾地域の発展のために活動されていることに敬意を表します。近年、訪問の場が増え活動が活発になっているかと思われます。これまでの活動を検証し自分達で活動を立案することでさらにやりがいを感じられると考えます。これからも栃尾地域のために知恵と力を合わせ、有意義な活動を展開してください。

栃尾観光協会 松生 健太 様

担当教職員より

今年はそれぞれの学生にとって学びや反省があった 1 年だと思います。来年はその経験を糧にして、何のために活動するのか(目的)を常に意識し、ともに活動する仲間や地域の方々の想いを共有し、大切にしながら活動を進めていってほしいと思います。

広報室 櫻井 洋資

活動記録 (2025 年 4 月～2026 年 3 月)

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月 初回訪問
- 7 月 地域活動中間報告会
- 8 月 とちお祭り
- 9 月 トチオノアカリ
- 10 月
- 11 月 ユニホッケー交流会
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
郷土料理作り体験会
- 1 月
- 2 月
- 3 月 手毬作り体験会



9 月 27 日 トチオノアカリ



12 月 7 日 郷土料理作り体験会



ホーム

かもろに 加茂ってすごいカモ！プロジェクト



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 12人、2年生 11人、
3年生 6人、4年生 3人、
教員 3人、職員 1人、
フェロー1人

活動地域： 加茂市

関連団体： plat KAMON ぶらかも ♪ 等

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



ナイトバザール

昨年に引き続き「お化け屋敷」を企画・運営しました。前回のカモフリマで回収した古着でお化けの衣装を作成しました。



10月19日 カモナイトバザール

古着を使ったワークショップ、ミニゲームを G ホームと協同で企画・運営しました。

活動目的と概要

私たち K ホームは新潟県加茂市で活動しています。加茂市は「北越の小京都」と呼ばれており、美しい自然と駅から続く商店街があり、自然と暮らしやすさが融合した魅力溢れるまちです。また、地域の方との結びつきが強く、地元愛に溢れています。そんな加茂市で私たちは地域のイベントに参加するだけでなく、「私たちにしかできないこと」を常に考えながら、K ホーム独自の多様なイベントを企画・運営し、地域の魅力を伝える広報活動にも力を入れています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

地域活動の目標として「縁joy～世代を超えて笑顔繋ぐ～」を掲げました。まずメンバー自身が楽しみ、その中で生まれる縁を大切にしながら「私たち」「子どもたち」「大人の皆さん」の三者が笑顔を循環させる状態を目指しました。今年度はそれを実現できたと感じる一年でした。例えば、ごみ減量のために加茂の古着を回収させていただき、その古着を地域の小学生と一緒に「てるてる坊主」へと再生しました。このてるてる坊主は地域のお祭りにてフォトスポットとして再登場し、子どもや親御さんと継続的に交流できる場となりました。さらには、回収した古着をコースターやシュシュとしてリメイクする企画などを行い、子どもから年配の方まで幅広い世代が楽しめる企画ができたと思います。これらの企画を通じて私たち自身も楽しむことができました。この他にも、地域の伝統行事に沢山参加させていただいたり、G ホームのみなさんとの協同企画も実施したりと、ありがたいことに沢山のご縁をいただきました。今後もこれらのご縁を大切にしながら、地域の皆様と共に楽しく活動していきます。

【ホーム運営について】

今年度は、「ナイトバザール」と「カモフリマ」の2つのイベントを活動の主軸として置き、全メンバーを2チームに配属するという形でホームを運営しました。昨年度と比較すると斬新な取り組みでしたが、全員がイベントの成功に向けて自らの役割を果たすことができていたと思います。このチーム制の成果として、「企画→終了後のSNS投稿」の流れがスムーズになったこと、各イベントに参加することの意義を見出しやすくなったこと等が挙げられます。また、ご飯会等の交流の機会を積極的に設けました。今年度は新入生が多かったということもあり、K ホームがまさしく「第2の居場所」となるよう、上級生が意識的に動いていたと思います。今後も様々な運営方法を検討しながら、加茂市を盛り上げていく一助となれるよう邁進します！

活動を通して学んだこと

自分の考えが不十分でもまずは発言してみる事が大切だと感じました。ダブルホームでは学生や教職員の方、そして地域の方と意見交換をすることができます。今後も対話の場面を増やすことで、自分一人では気付けなかった点を補い合い、力を貸し合う関係を深めていきたいです。

飯田 侑美（経済科学部 1 年）

今年度は各々の企画を独立させず、子どもを起点として企画間の繋がりが生まれるよう意識しました。その結果、特に若い世代の地域の方との関係性がより強固なものになり、Kホームのテーマ「縁 joy ～世代を超えて笑顔繋ぐ～」の実現に繋がったと思います。

石澤 尊（法学部 3 年）

前回のカモフリマで回収した古着を様々なイベントで有効活用できた一年間だったと感じます。イベント同士を関連づけることで、目的が明確になり、加茂市の方々と「縁」も繋がるということを学びました。初めてGホームとの協同イベントを行い、挑戦心を忘れず活動できました。

水澤 佑理（教育学部 2 年）

加茂市とのつながりを深めることができ、充実した一年間でした。また、地域貢献という同じ目標を持ったメンバーと協力でき、大きな達成感を得ました。自分自身が楽しみながら、協力してくださる方々に感謝の気持ちを忘れずに活動する大切さを学びました。

今井 心愛（創生学部 4 年）

今後に向けて

今後は、イベント終了後に地域の方とZoomなどを使った振り返りをする機会を設けることで、反省点を確実に次に活かす工夫をし、イベントの完成度を上げていきたいです。

現在Kホームが主に動かしているSNSはInstagramのみです。シンポジウムの際にInstagramを利用しない人に対してはKホームの活動成果が伝わりにくいという課題が明らかになりました。そのため、回覧板や加茂市の広報誌にKホームの活動を掲載することをアイデアの一つとして、広報活動により力を入れていきたいです。

昨年度はホーム長に仕事の負担が偏りすぎてしまうという反省点がありました。それを解決するために、イベントごとにイベントリーダーを設け、仕事を下学年にも積極的に振り分け、一人ひとりの役割を明確にすることを意識していきたいです。そうすることで、下学年が意欲的・主体的に活動に取り組める環境を整えることができます。また、1、2年生が主体となって企画するイベントにも挑戦したいです。

昨年度同様、まずはKホームの私たちが活動を「縁 joy」することを忘れず、Kホームの温かい雰囲気を受け継いでいきます。

活動地域より

今年も一年ありがとう。お祭りにさいのかみ、小中学校訪問やナイトバザール。活動の中心には、皆さんと触れ合う子どもたちの笑顔がありました。活動の幅も広がる今、自分たちの「好き」という感性を大切に、等身大の加茂を一緒に楽しみましょう。加茂にかも～ん♪

加茂市 堀内 大祐 様

担当教職員より

ここ数年の挑戦は実に見事でした。放課後児童クラブ訪問、衣類ゴミ削減の実証実験、ナイトバザール、Kホーム版オーキーン等多分野にわたる活動は、加茂のまちにおけるKホームの価値、役割を確実に高めています。大事なのはエンジョイマイインド。このことを忘れず、真っ直ぐ進んでください！

教育基盤機構 樋口 健

活動記録（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- 4 月 大説明会 雪椿祭り
- 5 月 加茂祭り
- 6 月 まちあるき
- 7 月 地域活動中間報告会
- 8 月 小学校との夏休み企画
- 9 月 ナイトバザール
- 10 月 Gホームとの協同イベント
- 11 月 カモフリマ
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月 さいのかみ
- 3 月



4 月 12 日 雪椿祭り



5 月 21 日 加茂祭り



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 11人、2年生 5人、
3年生 4人、4年生 5人、
修士以上 2人、教員 3人、
職員 1人

活動地域： 新潟市西区坂井輪中学校区

関連団体： 坂井輪中学校区まちづくり
協議会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



郷土料理研究会

新潟伝統の「麩寿司」「のっぺ」、Lホーム学生提案の「ニラせんべい」を作りました。



子ども食堂での工作

冬休みの子ども食堂の遊戯で紙コップ駒を作りました。

活動目的と概要

私たちのホームは新潟大学五十嵐キャンパスから徒歩・バスで10分ほどで行ける坂井輪中学校区で活動しています。子育て世帯の多い地域で西区最大のコミュニティである一方、高齢化が進んでいます。3世代の交流を深め「地域の大家族」のような関係づくりを目指し、老若男女誰もが暮らしやすい、楽しく温かな地域作りをまちづくり協議会と協力しながら実現したいと考えています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動における目標は2つありました。

1つ目は坂井輪まつりで子ども向けの出店をLホームで企画・実施することです。前年度は台風によって中止だったため段取りが曖昧だったところがあります。結果、女性支援隊の協力を得て出店し店自体は盛況でしたが、学生が企画段階で関わらなかった点は課題です。

2つめは子どもたちとより積極的に関わることです。地域活動で大学生ならではの役割を果たせるように、子ども食堂を中心に花植えや坂井輪まつりなど活動で積極的にコミュニケーションを取れたと思います。また、子ども食堂で子どもに楽しんでもらえるような遊びの充実させたことで仲が深まり、子どもから「こんな遊びがしたい」と要望が出るなど一定の成果がありました。

【ホーム運営について】

本ホームでは①全員に役割を与え活躍してもらうこと、②活動に参加しやすい雰囲気作り、③報連相の徹底の3点を目標に活動してきました。

①について、役割分担を意識していたものの、メンバーの固定化により一部メンバーに負担が偏っていたことや役割の曖昧さによって自主的な参加の妨げになっていたことが課題となりました。

②について、Zoomを併用したミーティングの開催の機会が減り、旭町キャンパスの学生や参加経験の少ないメンバーは参加するのに心的ハードルが生じました。

③について、今年度は連絡担当を予め決めたことで一定の情報共有体制を整えていました。しかし、地域の方との振り返り会において、活動ごとに連絡担当者を決めるのも有効であるという意見もありました。これは踏まえ、来年度は状況に応じて柔軟に担当者を設定し、情報の抜け漏れを防ぐとともに、より確実に効率的な情報共有を図りたいと考えます。

活動を通して学んだこと

私はダブルホーム活動で、様々な人と交流できたことが印象的です。学部・学年を超えた仲間との活動を通して「地域の活性化の為にこんなにも多くの人が関わっているのだな」と改めて坂井輪地域の繋がりの強さを再発見した一年間でした。

高橋 里奈（農学部 1 年）

地域の方々や子どもたちと関わる中で、相手の立場になって考え行動する大切さを学びました。子ども食堂では、一人ひとりに合った接し方で、安心して過ごせる環境づくりを心がけました。また、活動への参加を通して、人との繋がりの温かさや協力することの大切さも痛感しました。

早川 美沙希（経済科学部 2 年）

伝え方の大切さを学びました。1 年間子ども食堂係を務め、ホームと地域を繋ぐ役割をしていました。私の伝え方次第で、L ホーム・新潟大学の学生とはという地域の方の印象、ホームのみんなの子ども食堂に対する捉え方が大きく変わることを感じました。

富井 和咲（教育学部 3 年）

人とのつながりの大切さを学びました。自分の言動はいつでも自分に返ってくるため、常に謙虚さと思いやりを持つことが重要だと実感しました。地域活動では、大きな目標を掲げる前に、まず相手との信頼関係を築く姿勢が活動全体を支えていると感じます。

前野 翔紀（自然科学研究科修士 1 年）

今後に向けて

シンポジウムと振り返り会での話し合いを踏まえて次年度は以下の 3 点に取り組むと考えています。

1 つ目は、既存活動に注力することで活動の質や学生の参加率を上げることです。次年度は 2 回の花植えを予定していて、地域の方から参加者が増えてほしいとの声もありました。また、来年度こそは坂井輪まつりの自主出店を実現させます。場所の拡大に伴い複数のゲームを用意したいと思います。

2 つ目は、活動スケジュールや活動内容を全員が理解することで主体的に活動に参加できるようにすることです。顔合わせの時期が早まり、6 月下旬にも花植えの活動が入ってくるかもしれませんが、右の活動記録のようなスケジュール感で動いていきます。活動内容を改善するためにも学生からのアプローチを積極的に地域の方にしていきます。

3 つ目は、Instagram や紙媒体による広報活動などの場面で多くのホームメンバーに役割を与え、ホーム長・副ホーム長の負担を軽減するとともに、引き継ぎに支障が出ないような組織体制を作ります。

活動地域より

L ホームの皆さんには、モリスバ子ども食堂などで、いつもバラエティーに富んだプログラムを提供いただき感謝しています。能登半島地震の影響が少し残っている坂井輪地域ですが、これからも、地域の祭りや花植え、モリスバ子ども食堂などの活動を通して、L ホームの皆さんと一緒に地域を盛り上げていきたいと思っています。

女性支援隊 隊長 山本 貴美子 様

担当教職員より

子ども食堂を中心とした活動が定着しつつあります。学生の皆さんの活動やチャレンジが地域にとっての新たな価値につながるかもしれません。まち協の皆様との情報共有を大切に、責任を持ちながら楽しく活動していきましょう。皆さんの挑戦と成長に期待しています。

創生学部 澤邊 潤

活動記録（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月 まち歩き
- 7 月 顔合わせ、地域活動中間報告会
- 8 月 夏休みの子ども食堂
- 9 月 坂井輪まつり
- 10 月
- 11 月 花植え、郷土料理研究会
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
餅つき大会
- 1 月 冬休みの子ども食堂
- 2 月 振り返り会
- 3 月 春休みの子ども食堂



9 月 7 日 坂井輪まつり



12 月 7 日 餅つき大会



ホーム

ねすと ～万代からはじまる・つなげるプロジェクト～



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 6人、
3年生 5人、4年生 3人、
教員 2人、職員 1人、
フェロー 1人

活動地域： 新潟市万代地区

関連団体： NST 新潟総合テレビ
新潟交通 等

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

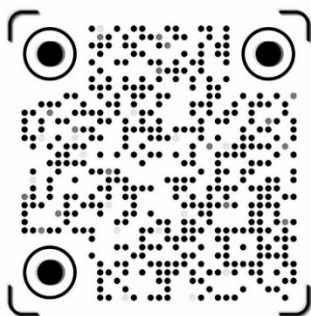


@NHOME_NIIGATA

Instagram アカウント

自分たちが感じた魅力などを、紹介していくという形で、発信をしていきました。

@nhome_niigata



TikTok アカウント

より情報発信に力を入れるため、今年度アカウントを開設しました。

活動目的と概要

新潟市中央区にある万代シテイを拠点に地域の魅力を発信するとともに、他ホームとの連携を通してダブルホーム活動全体の情報を発信するハブ的役割を担うことを目的として創設されたホームです。

今年度は、NST新潟総合テレビ、新潟交通、礎町の方々と連携して活動を行いました。また、SNSを活用してホームの活動を発信しました。

来年度は、改めて創設時の理念に立ち返り、各ホームをつなぐハブ的役割をより一層強化していきたいと考えています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は、①SNSを本格的に運営し、Nホームのアカウントの認知度を高めること、②ツアー企画を実施し、継続可能なプロジェクトにすること、③新たに共に活動してくださる地域の方を見つけることの三つでした。①については、従来のInstagram運営に加え、新たにTikTokアカウントを開設しました。これにより発信媒体の幅が広がり、SNS運用の活性化に向けて前進することができました。②については、他の新規のイベントへの取り組みに注力したこともあり、ツアー企画の実施には至りませんでした。継続的なプロジェクトとして形にするためには、企画準備や人員確保の体制づくりが必要であると感じました。③については、今年度より礎町の方々と新たに連携を開始しました。活動範囲が広がり、地域とのつながりを深めることができました。特に、「大円寺公園マルシェ」への参加は継続的な取り組みとなり、今後の定例活動として定着していく見込みです。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営における活動目標として、①地域活動の回数を増やし、投稿内容をさらに充実させ、万代の魅力発信に繋げること、②ホーム外の人巻き込んでイベントを実施すること、③万代地区だけでは範囲が狭く、活動しづらいという意見も出たため、まずは万代付近で一緒に活動していただけそうな団体を探すことの三つを挙げていました。①については、地域活動の回数を増やすことができました。特に、礎町「大円寺公園マルシェ」への参加及び新大祭への出店は今年度の新たな挑戦となりました。②については、ホーム外の人を積極的に巻き込む取り組みは十分に実施できたとは言えませんでした。企画段階から外部参加を前提とした設計が不足していたことが課題として挙げられます。今後は、他団体や学生を巻き込める仕組みづくりを意識して運営していきたいと考えています。③については、新たに礎町の方々と連携し、活動の幅を広げることができました。万代エリアにとどまらず、近隣地域とのつながりを築くことで、活動の幅が広がったと感じています。今後も継続的な関係構築を行い、安定した協働体制を整えていきたいです。

活動を通して学んだこと

自ら発言し、率先して動くことの大切さを学びました。特に今年度は多くの活動がホームとして初の試みだったため、学年関係なく積極的に行動を起こすことが大切だったと思います。来年度は今年行ったことを継続しつつ、新たに活動を広げていきたいです。

村山 優太（経済科学部 1 年）

一年間の活動を通して、異学年や地域の方々との関わりが、新たな居場所やつながりを生み出すことを実感しました。普段の生活では関わる機会の少ない人々と協働することで、多様な価値観に触れ、視野が広がりました。人との信頼関係が活動の基盤であると学びました。

藤塚 愛花（人文学部 2 年）

ダブルホームでの活動を通して、主体性やコミュニケーション能力が身についたと感じています。今年度は活動内容が大きく変化し、例年通りにはいかないことも多くありました。そのような状況下で自ら企画を考え、メンバーと協力して実行できたことは貴重な経験になりました。

十文字 仁胡（農学部 2 年）

まちあるきやマルシェ参加などの共創活動を通して、地域の魅力を能動的に知っていくことができたと感じています。企画や魅力を探すことと実践を組み合わせる活動し、地域の方との交流の楽しさ、若者の活力が与える貢献性を学ぶことができました。

峯田 彩羽（経済科学部 3 年）

今後に向けて

今年度のシンポジウムでの話し合いや活動の振り返りを通して、Nホームの今後の在り方について改めて考える機会となりました。その中で、創設時の理念である「各ホームをつなぐハブ的役割」に原点回帰することの重要性を再確認しました。ここ1、2年間は地域との連携や個別の活動に力を入れてきましたが、それらの活動を継続しつつ、今後はホーム間の情報共有や企画促進にも積極的に関わり、ダブルホーム全体の動きをつなぐ存在としての役割を明確にしていきたいと考えています。

また、今年度はTikTokアカウントを新たに開設し、情報の発信手段の幅を広げることができました。来年度はInstagramとあわせてSNS運営をさらに強化し、継続的かつ計画的な情報発信を目指します。

来年度はNホーム創設5年目という節目の年でもあります。これまでの歩みを大切にしながら、原点に立ち返り、Nホームの存在意義を改めて問い直し、より強固なつながりを生み出せるホームへと発展させていきます。

活動地域より

まちあるきで多くの質問を重ねていた皆さんの熱心な姿勢に感心しました。万代シテイが皆さんのような若者でこれからも賑わい続けることを願っています。

「こうだったらいいな」という声を、ぜひ発信し行動につなげていってください。

万代シテイ商店街振興組合 若月 翔太 様

担当教職員より

5月と11月は、新たな取り組みとして礎町マルシェに参加し、地域の方々や子供たちと楽しく交流し新潟の盆踊りを教わりました。12月は、展望台や水上バスで信濃川から見たクリスマスイルミネーションに感激です。ミーティングで各自の意見を出し合っていてNホームは成長を続けています。

工学部 菅原 晃

活動記録（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月 大円寺公園マルシェ
- 6 月 まちあるき
- 7 月 地域活動中間報告会
- 8 月
- 9 月
- 10 月 新大祭、開講！新大@古町ルフル
- 11 月 大円寺公園マルシェ
- 12 月 まちあるき
ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月
- 3 月



5 月 18 日 大円寺公園マルシェ



6 月 21 日 まちあるき



ホームの概要

メンバー構成： 1年生8人、2年生7人、3年生3人、修士以上1人、
教員2人、職員2人

活動地域： 村上市早稲田地区

関連団体： なし

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



新大祭に出店

今年度も新大祭に出店し、来場者に早稲田の大海とホルモン焼きを提供しました。



しめ縄

今年度は地域のみなさんと Q ホームメンバーに加え、F ホームのみなさんと協力して、しめ縄づくりを行いました。

活動目的と概要

Q ホームは、自然豊かな新潟県村上市早稲田地区を拠点に、地域の方々の想いや地域の歴史や伝統への理解を深めることを目的として活動しています。しめ縄づくりや才の神などの地域行事に参加することで地域の歴史や伝統を学び、収穫祭や地域の神様をまつる三吉様への参道整備などの活動を通して早稲田地区の地域理解につなげます。今年度は、新たな学生企画として「夏休み子ども企画」を行い、夏休みの勉強サポートや昼食会を通して、地域の子どもたちとの交流を深めました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の目標は以下の3つでした。

1つ目は、地域活動に積極的に参加し、活動以外でも地域とのつながりを保つこと及び活動後に振り返りを行うことです。地域とのつながりを保つための取り組みとして、かわら版の発行やSNSへの投稿をすることが出来ました。振り返りについては、活動後のミーティングでメンバーの意見をまとめ、有意義な振り返りを行うことが出来ました。

2つ目はチャレンジ企画を計画し、実行に移すことです。これについては、夏休みに地域のお子さんたちと交流する企画を実行できました。しかし、参加したお子さんが少なく、地域全体を巻き込むことはできませんでした。地域への告知が遅くなってしまったことや地域の方が参加しづらい日程だったことが原因だと考えられます。

3つ目はホーム内、そして他ホームとの交流機会を多く持つことです。Fホームのみなさんに早稲田地区に来てもらい、一緒にしめ縄づくりを行うことが出来ました。しかし、私たちがFホームの活動に参加することは出来ていません。

【ホームの運営について】

今年度の活動目標は以下の3つでした。

1つ目はホーム内、そして他ホームとの交流する機会を設けることでした。Fホームとの合同ミーティングや食事会を開き、親睦を深められました。また、自ホームでも昨年度より多くの食事会を開き、気軽に交流する機会を設けることが出来ました。

2つ目は行事等の際に役割分担し、一部メンバーに負担の偏りが出ないようにすることです。昨年度の役割分担を保ったまま、役割の引継ぎをすることができ、負担が分散する仕組みを維持出来ています。しかし、行事では役割を分けたものの、メンバーの数が少なく、一部の人に負担がかかっている状況でした。

3つ目はメンバーの意見を取り入れ、綿密な話し合いを行うことです。ミーティングでは一人一人が発言する機会を設けられています。しかし、意見が一方向に流れてしまい、会話のキャッチボールができない場面も見受けられました。昼休みという短い時間の制約やZoomで参加するメンバーが多いことによる話し合いの難しさを感じました。

活動を通して学んだこと

活動を通して、私は他地域との交流が活動に良い影響を与えるかもしれないと学びました。シンポジウムで他地域の方のお話を聞き、学生と地域の方の関わり方に違いがあることを知りました。他ホームと交流することは、課題解決や新たな活動のきっかけになると感じました。

岸 大智（工学部 1 年）

活動を通して、地域はその場所に住む人々の行動力によって支えられていると学びました。活動前に山道を整備してくださったり、おいしい食べ物を用意してくださったり、多くのものを与えていただきました。来年度は自分にできる役割を探し、地域の方との関係を深めたいです。

上出 結月（工学部 3 年）

地域の伝統行事に参加し、季節ごとに移り変わる早稲田の情景を観て、地域の魅力を発見する力を学ぶことができました。また、毎週のミーティングを通じて、学生が主体となって新たな企画を計画し、実行する能力が身につきました。

川面 貴志（理学部 2 年）

早稲田の皆様には、家族のように温かく接していただき、毎日が楽しかったです。皆様と行事で交流できたこと、新大祭や火おこし体験を運営できたこと、食事したことなど。すべてが一生忘れない思い出になりました。卒業後も、地区を訪ねたいと思いますので、宜しくお願い致します！

和田 共生（自然研）

今後に向けて

今年度も様々な地域行事に参加させていただき、早稲田地区の豊かな自然や地域の方々の温かさ、私たちの新しい挑戦を積極的に支えてくださる姿勢から、たくさんのことを学ぶことができた 1 年となりました。昨年度からの目標であったチャレンジ企画は「夏休み子ども企画」という形で実現することができました。取り組みは地域の方から良い評価をいただいたものの、初めての試みであったため課題も多く残る企画となりました。来年度は今回の反省点を生かし、地域の方々との連携を深めながら、よりよい企画となるよう努めていきたいです。また、新大祭への出店では、早稲田の伝統料理である大海を売り切ることができた一方、来場者の方々に早稲田の文化を伝えるためには、私たち Q ホームの学生がもっと地域を知る必要性があることに気が付きました。そのために、これまで通り地域の一員として早稲田地区に貢献し、早稲田の魅力を体感すると同時に、新しい早稲田を見つけるための工夫をしていきます。さらに、活動に少し変化を持たせるなどして学生の参加率を上げ、ダブルホーム活動の楽しさを発信していきたいです。来年度も私たち Q ホームと村上市早稲田地域をよろしくお願いします。

活動地域より

今年度は夏休み企画として新たに提案、実行してもらいましたが、今後もいい提案があったらお願いします。

参加している集落の人との交流のなかで、何か得るものもあると思います。社会人になってこの経験を活かしてスキルアップしてもらいたいと思います。

村上市早稲田地区 相馬 徹 様

担当教職員より

今後、直面する新たな課題を Q ホームの皆さんがどのように克服し、どのように新しい取り組みを進めていくのか、また活動がどう変化したのかなど、記録として残していくことが、Q ホームの未来の財産となります。柔軟な発想で早稲田地区における新しい活動を展開し、地域活動を盛り上げていきましょう。

学術情報管理課 鈴木 忍

活動記録（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- 4 月 大説明会、お花見
- 5 月
- 6 月 三吉様参拝
- 7 月 地域活動中間報告会、しめ縄づくり、子ども神輿
- 8 月 夏休み子ども企画
- 9 月 敬老会
- 10 月 新大祭、収穫祭
- 11 月
- 12 月 ダブルホームシンポジウム、クリスマス会
- 1 月
- 2 月 振り返り会
- 3 月



8 月 10 日 夏休み子ども企画



10 月 19 日 収穫祭



ホームの概要

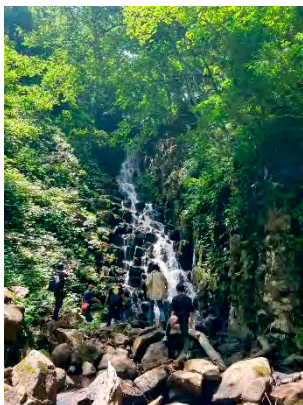
メンバー構成： 1年生 10人、2年生 4人、
3年生 4人、4年生 4人、教
員 2人、職員 1人

活動地域： 阿賀町七名地区

関連団体： 阿賀町上川支所、
NPO 法人 七福の恵

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



地域探索で訪れた大尾不動滝

滝のふもとまで行くことができ、自然の偉大さを実感しました！



蕎麦打ち体験

今年は、上川そば祭りで蕎麦打ち体験を行いました。自分たちで種を植えて収穫したそば粉を使った蕎麦は格別においしかったです！

活動目的と概要

私たち R ホームは、山々に囲まれた自然豊かな阿賀町七名地区を活動の拠点としています。七名地区はそばが有名で、従来私たちはそば作りを中心に一年間活動します。種まきから収穫、唐箕がけを経てそば粉にし、最後は自分たちで収穫したそば粉を使ってそば打ち体験を行います。また、七福の里祭りや上川そば祭りなどのお祭りにも参加し、地域の方との交流を深めます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の目標は、「より多くの地域の方々とそば作りを通して深い関わりを持ち、外部の人間としてではなく地域の一員として活動すること」でした。今年は、昨年度実施できた「そばの実の収穫」と「そば打ち体験」を引き続き実施することができ、そば作りという一連の活動を通して、地域の方と深くかわり、地域の一員として活動することができました。また、昨年度よりも活動に参加する学生の人数が増え、より多くの学生が地域の方と関わりを持つことができた実感しています。しかし、活動によっては学生の人数が少ないものもあったため、全ての活動に対しメンバー全員が参加するようなホームにするということが課題であると感じました。そのため、来年度は他ホームとの交流も視野に入れて学生の積極的な参加を目指したいと思います。

【ホーム運営について】

ホーム運営の目標として今年度は大きく 2 つの目標を立てました。1 つ目は「地域訪問以外の活動（オープンキャンパスやシンポジウムなど）の学生の出席率を向上させる」2 つ目は「先輩から後輩への情報継承をしっかりと行う」です。

1 つ目の「地域訪問以外の活動への学生参加率を向上させる」という目標の達成は不十分であったと感じています。シンポジウム等の準備に関しては、メンバーで協力しながら上手く進めることができましたと思いますが、依然としてイベント当日の参加率が低いことが課題であると感じました。

2 つ目の「先輩から後輩への引継ぎをしっかりと行う」という目標はあまり達成できなかったと感じています。100%達成に至らなかった原因は、3 年生がリーダーをチームの交代制で実施したことによる引継ぎミスが相次いだことです。来年度は情報共有を行う側と受け取る側、両者が責任をもって役割を果たすことが大切であると感じました。

活動を通して学んだこと

私は今までの活動で地域の方々と親睦を深めてきたおかげで、この1年間はこれまで以上に深い関わりができました。交流を続けるうちに自然と距離が縮まり、お互いに助け合う場面もありました。この関係を私自身はもちろん、Rホーム全体でも大切にしていきたいです。

翁 卓司（経済科学部3年）

そばの栽培や祭り運営に関わる中で、外からは見えにくい地域の魅力や住民の想いを実感しました。また、それらを形にするには信頼関係の構築が不可欠であり、丁寧な対話と継続的な関与の重要性を学びました。さらに、役割分担と柔軟な調整が成果に直結することも理解しました。

佐藤 和ノ葉（経済科学部3年）

私がダブルホームの活動を通して学んだことは、友人と協力して課題を解決するということです。活動の中で、ポスターの作成や成果の発表など、1人だけの力ではできない課題が多くありました。そこで、役割分担をしてより良いものを作るという経験をすることができました。

西田 泰造（農学部2年）

私は七福の里祭りへの参加や地域の魅力を感じる活動の中で、地域の方々と関わり、地域の思いやこれからを模索するという経験から、地域と向き合い課題を解決することの重要性と地域を学生視点からよりよくしていく際の難しさを学びました。

丹治 璃空（経済科学部2年）

今後に向けて

来年度の目標は大きく2つあります。1つ目は「阿賀町の他ホームとの交流」2つ目は「役割分担の見直し」です。1つ目の「阿賀町の他ホームとの交流」は、Rホーム内の交流を図るとともに七名地区以外の地域も知る機会を作ることを目指し考えました。具体的には、阿賀町で宿泊を行ったり他ホームの地域探索に参加したりなど、ホーム内で話し合うことはもちろん、他ホームとの輪も広げたいと考えています。また、阿賀町も協力してくれるとのことのお言葉をいただいたので、学生、地域の方を巻き込んだ活動を新たに行いたいと考えています。

2つ目の「役割分担の見直し」については、ホーム長だけが負担を抱えるのではなく、みんなで仕事を行うことによって、負担の軽減はもちろん、一人一人が責任を持つことで活動の参加率向上も図れるのではないのかと考え、この目標を立てました。ダブルホームの活動を楽しむことは大前提としつつも、一人一人が役割を持って活動に取り組むことでホーム全体で活動を盛り上げていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

活動地域より

蕎麦栽培をテーマにした活動が契機となって、Rホームの皆さんと七福の里地域との関わりが続いていることを大変ありがたいて感じています。最近は天候不順や獣などによる被害が多くて、蕎麦を食べるまでの一貫した取組がなかなか実現できなくて申し訳ないですが、これからも活動が継続され、大勢の皆さんが参加されることを期待しております。

阿賀町七名地区 石川 久作 様

担当教職員より

阿賀町内外から多くの方が新そばの試食を目当てに来られ、この地区におけるそばの重要性を知ることができたかと思います。私たちのダブルホームでの活動により、多くの人にこの地区の魅力を知っていただけるよう、アピールしていきましょう。

農学部 三亀 啓吾

活動記録（2025年4月～2026年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 七福の里祭り
- 7月 地域探索、地域活動中間報告会
- 8月 そばの種まき
- 9月
- 10月 そばの実収穫
- 11月 蕎麦打ち体験、上川そば祭り
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月



8月9日 そばの種まき



10月18日 そばの実収穫



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 6人、
3年生 3人、4年生 3人、
修士以上 1人、教員 4人、
職員 1人

活動地域： 阿賀町中ノ沢地区

関連団体： NPO 法人 お山の森の木の学校

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



しめ縄

かやりから自分たちで行い、地域の人々に教えていただきながら作成しました。



さいのかみ

地域でも重要な行事であるさいのかみの準備のお手伝いを行いました。

活動目的と概要

私たちのホームは、周囲を山や森林に囲まれた自然豊かな地域である中ノ沢地区をフィールドに活動を行っています。中ノ沢は魅力あふれる地域である一方、地域の高齢化や過疎化が問題となっています。いつもあたたかく受け入れてくださっている地域の皆様のためにも、私たちは、この中ノ沢を地域の方々と一緒になって盛り上げていきたいと思っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の活動目標は大きく3つありました。

1つ目は、ホームのメンバーと地域の方々の双方にとって有意義で楽しめる活動を企画し、交流を深めることです。単に自分たちが楽しむ活動にとどまらず、地域の方々のために私たちができることを考えながら活動を展開することができました。

2つ目は、中ノ沢ならではの文化・自然を体験・発見し、それらを次の代につなぐ意識を持つことです。森林探索や山菜など中ノ沢ならではの文化に触れ、魅力を感じました。また、それを継承するために私たちのできることを考えるようになりました。

3つ目は、活動で得た知識や経験を地域に還元できるように意識することです。自分たちの情報を発信していくため、SNSの活用やSホーム通信の作成などを行いました。

【ホーム運営について】

今年度は、ホームの組織運営の目標として、3つありました。

1つ目は、学生自身が活動を「楽しむ」ことに加え、地域の人にも楽しんでもらえる企画や訪問回を増やしていくことです。今年度の活動では、地域の方々と対話を意識的に行うようにしました。その結果、学生が提案した「のっぺ」や「きのこ炊き込みご飯」などを協働で調理することができ、交流を深めることができました。

2つ目は、各企画のリーダーが責任をもって報告・連絡・相談を丁寧に遂行すると同時に、他の各人も当事者意識をもって行動することです。週一回程度行われるミーティングにおいてしっかりと役割分担を行い、それぞれが当事者意識をもって主体的に活動に取り組むことができました。

3つ目は、卒業後もSホームの活動に関わることができる関係・環境を作り、維持することです。今年度は、卒業生と直接かかわる機会を設けるには至りませんでした。現在のメンバーで学年や学部を問わず、多様なメンバーが協力し合って活動を進めることができました。

活動を通して学んだこと

今年は活動2年目になり、地域の方との距離をもう少し縮められたかなと思います。また去年できなかった、さいのかみも実施でき、中ノ沢地域に伝わる文化についての理解も深められた1年でした。来年は3年生になり、ホームに何かを残せるように活動していきたいです。

田邊 知己（農学部2年）

私は、一年間Sホームの活動を通して中ノ沢地区の魅力をたくさん発見することができました。また、しめ縄作りやさいのかみなど中ノ沢地区の伝統的な行事に参加させていただき多くの経験や新たな知識を身に付けることができました。今後は地域の方の力になれるような活動を行いたいです。

青柳 楓（農学部3年）

活動に参加した当初は様々な不安があったものの、実際に訪問すると、地域の方々がとても親しみやすい人々だということが実感できました。想像よりも楽しく行事の手伝いなどを行うことができ、また地域の食という発見もあったことなど、充実した一年となりました。

鹿島田 愛流（農学部1年）

この一年で、その地域ならではの良さや温かさを実感できました。また、地域に根づくダブルホームの魅力を実際に感じました。特に、人とのつながりや伝統を重んじることに感銘を受けました。今後は、県内外様々な方に魅力を伝えられるよう活動していきたいです。

渡邊 里紗（農学部1年）

今後に向けて

私たちのホームでは、それぞれ中ノ沢のいいところを見つけるべく、活動を行ってきました。去年に引き続き、しめ縄づくりやかや刈りなどの行事への参加に加えて、学生がやってみたかったのっぺやきのこ炊き込みご飯づくりなど、チャレンジした活動を展開することができました。中ノ沢の地域の人々との関係性を築き、対話を重ねることで、表面上だけではない、真の魅力の発見につながることに気づきました。

今後は、自分たちがどんな活動がしたいか、どんな活動が地域から求められているのかを考え、より学生が「楽しめる」ことはもちろん、地域のためにもなる活動を展開していきたいです。

活動地域より

今年は計画どおりの活動ができたことを嬉しく思います。

特にSホームのメイン活動は2月の「さいの神」、11月に力を合わせて刈った茅が青空に燃え上がり明日への希望の炎となりました。

自然の中、様々な活動は今後の人生の力となるでしょう。ご活躍を期待します。

阿賀町中ノ沢 神田 一秋 様

担当教職員より

活動を重ねるごとに地域の方々と積極的にコミュニケーションをとるようになり、活動の充実度が高まったと感じます。地域の魅力だけでなく、相互理解の大切さも実感しました。Sホームの良い雰囲気大切にしながら、地域の皆さんと学生がともに元気になれる活動を続けていきましょう。

経営戦略本部評価センター 関 隆宏

活動記録（2025年4月～2026年3月）

4月 大説明会

5月

6月

7月 1年生初訪問、地域活動中間報告会

8月

9月

10月 しめ縄作り

11月 かや刈り

12月 ダブルホームシンポジウム

1月

2月 さいのかみ

3月



7月 1年生初回訪問



2月 さいのかみ



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 11人、2年生 6人、
3年生 8人、4年生 2人、
修士以上 4人、教員 3人、
職員 2人、フェロー 1人

活動地域： 十日町市松之山下川手集落

関連団体： 美人林を守る会

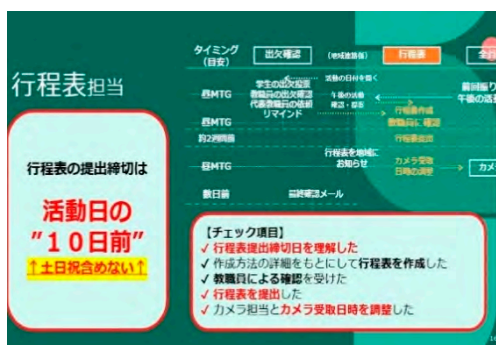
ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



コシヒカリ「しちべえ」

「しちべえ」は生き物との共存を目指して中干しをせずにつくるお米です。ほりごたつの通年の活動として農薬・肥料を使わず地域の方と協働し手作業で育てています。



事務的作業手順のマニュアル

メンバーには自身のスマートフォンにダウンロードすることを推奨しています。

十日町×しちべえ×美人林＝ほりごたつ

活動目的と概要

私たちは十日町市松之山地区下川手集落で活動をしています。主な活動として、中干しをせず農薬を使わない、環境に配慮した米作りを集落の方々と協力しながら行っています。その他にも集落の清掃活動や地域行事へ定期的に参加しました。

私たちの活動目的は「自然と共存する」ことです。そのため、米作りでは田んぼの生き物との共存を目指し、広く用いられている米作りとは違った作り方をしています。豊かな里山の環境を大切に、学びながら様々な活動を行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

年次計画書では、地域の方からお米作りを教わり地域のよさを自ら発見すること、道普請や伝統行事への参加、美人林の看板作成などを目標として掲げました。

実際の活動として、コシヒカリ「しちべえ」作りを通年でい、伝統的な米作りの手法を学びました。11月3日の美人林祭り等で販売させていただき、得た11万円の売上は地域に還元して、さらなる地域の魅力発見の機会創出に役立てました。チャレンジ活動として、「美人林を守る会」の保全活動を学生目線で伝える看板づくりを進めました。製作過程で地域の方々と話し合いの場を持ったことで、地域のみなさんの大切な想いをしっかりと内容に組み込むことができた点は大きな成果でした。

一方で課題としては、募金用2次元コードのサービスが利用できない問題や私たち学生の不手際も重なり、年度内に看板を完成させるまでに至らなかったことが挙げられました。

【ホーム運営について】

ホーム運営では、地域の方々の想いに寄り添い活動すること、昼のミーティングでの共有事項の確認や進捗の可視化、活動目的の明確化と役割分業による学生間の負担軽減を目標としました。

実際には、ミーティング議事録をTeams・メーリスで共有するとともに、グループLINEを活用して全体の情報共有を行いました。成果として、課題であった特定の人への役割の偏りを解消するため、新たに事務的作業の手順をビジュアル化させたマニュアルを作成しました。これにより、これまでその作業をやったことがない学生にも仕事を依頼しやすい雰囲気づくりができ、役割の分業化や学年を超えた仕事の引継ぎがしやすくなりました。このマニュアルについても、Teamsで共有しつつでも確認できるようにしています。

課題としては、依然として一部の仕事が偏り、特定の人しか活動の企画に参加できていない状況にあることが挙げられます。今後はマニュアルを随時更新するとともにより良い方法を考えながら、学部学年を横断して連携を深め、全員が主体的に関われる体制の定着を目指します。

活動を通して学んだこと

1年間活動に参加し、米づくりでは手作業での農業体験を通じて、自然を身近に感じることができました。下川手集落の美人林や蛭などの魅力を知ることができ、その魅力を多くの人に伝えていきたいと感じました。集落の方々はあたたかく迎えてくださり、充実した活動ができました。

仲原 幸太郎（農学部1年）

私は米作りを通して多彩な自然環境や多様な人間模様に触れ、豊かで実りのある、奥行きを持った経験ができ成長を実感しました。このような素敵な経験ができてるのは、集落の方々やほりごたつの仲間のおかげです。このことに深く感謝し、今後も活動を楽しんでいきます。

興村 幸次（教育学部2年）

学生同士や地域の方との対話を重ねて想いを形にしていく過程を通じ、社会で生きる協働する力と相手に寄り添う姿勢を身につけました。3年生として後輩をけん引する立場でしたが、地域の方の技能に熱い眼差しを向けてひたむきに学ぶ後輩の姿を見て、私自身も見習いたいと思いました。

今村 一貴（工学部3年）

4年間の活動を通じて、多くのことを学び、かけがえのない経験を重ねることができました。支えてくれたメンバー、先生方、地域の皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。新天地でも、ダブルホームで得た経験を支えに、頑張っていきたいと思います。

荻野 真衣（農学部4年）

今後に向けて

シンポジウムでの話し合いや今年度の振り返りを踏まえ、次年度は自分の得意なことで地域の魅力やホームの活動を繋げることを短期的な目標に掲げて活動していきます。

そのための具体的な手段として「かわら版」の深化に取り組みます。学生一人ひとりが大きな意味や価値を感じている活動について、それぞれの視点から素直な気持ちや熱意を表現するメディアへと進化させ、ホーム内での目線合わせにも活用します。さらに先日、「美人林を守る会」のInstagramにも掲載していただけることが決定しました！これにより、地域との繋がりや発信力をより強固なものにしていきます。また、今年度から地域の方々と対話を重ね、想いをくみ取りながら進めてきた美人林の看板づくりについては、次年度の活動として必ず完遂させ、形に残る成果とします。

これらの実践を通じて地域と深く関わり、試行錯誤するダブルホームでの豊かな体験を、学生時代の活動に留めず、大学卒業後も続くその先を見据えた私たち自身の人間形成という最終的な長期目標へと確実に活かしていきたいと考えています。

活動地域より

今年度も下川手集落を愛していただき、ありがとうございます。今年度は美人林に看板を立てる目標がありましたが、完成間近で少し足踏み状態になってしまっていて残念でした。また、募金箱作りは少し厳しかったのではないかと思います。設置するのは簡単ですが、盗まれたら悲しいですからね...看板は来年度ぜひ完成させてください。楽しみに待っています。また道普請などで地域の人たちへの応援をよろしくお願いします。

下川手集落 副総代 保坂 繁 様

担当教職員より

この活動では、地域の人生の先輩方との交流を通して、ひとへの思いやりや所作、意見が違う相手との向き合い方、自分の気持ちを丁寧に伝える方法など、今後の人生で必ず必要な力が生まれています。これら経験が貴重なものであることを忘れず、これからも一緒に活動を楽しんでいきましょう。

農学部 大橋 慎太郎

活動記録（2025年4月～2026年3月）

- 4月 苗代作り
- 5月 道普請
- 6月 田植え・草取り
- 7月 地域活動中間報告会・草取り
- 8月 盆の道なぎ
- 9月
- 10月 稲刈り、脱穀・精米
- 11月 美人林祭りでのお米販売・道普請
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月 さいのかみ
- 2月 送別会
- 3月



6月1日 田植え



1月12日 さいのかみ



ホームの概要

メンバー構成： 1年生6人、2年生7人、
3年生3人、4年生1人、
教員2人、職員2人、
フェロー1人

活動地域： 阿賀町津川地区

関連団体： 阿賀町役場

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



国際交流チラシ（英語バージョン）

国際交流 in 阿賀町津川で使った
留学生向けのチラシ



国際交流 in 阿賀町津川

狐の嫁入り屋敷にて狐のお面の絵付け体験
をしました

活動目的と概要

私たちUホームは、豊かな自然、歴史や伝統、趣ある街並み、あたたかい地域の人々に囲まれながら阿賀町津川地域を拠点に活動しています。私たちは、きつねの嫁入り行列や京ノ瀬夏祭りといった地域の伝統行事への参加によって地域の方々との交流を継続的なものにするとともに、学生主体のイベントを企画・運営することで、地域活性化を図ることを目的としています。今年度は国際交流や津川駅物産販売会（SL企画）を企画・運営しました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

Uホームの今年度の活動目標は、①「量」から「質」へ既存の活動をブラッシュアップしていく、②津川地域と外部をつなぐ架け橋になる（SNS等を活用）、③回覧板の発行回数を増やす、の3つでした。①は、コロナ禍で減った活動を徐々に増やすという「量」から、活動の「質」自体を高めていくことに目を向けたものでした。成果としては、阿賀町の観光ガイドの方にまちあるきを行っていただくことで、より深く津川について知る機会を設けられたことが挙げられます。また、今年度は津川駅物産販売会（SL企画）や阿賀町社会福祉協議会主催のキッズサロンへの参加といった新たな活動もスタートしました。課題としては、これらの活動をどう継続していくかということが挙げられます。②と③については、広報の機会を増やしていくために設定したものでした。SNSはInstagramを使用し、係が地域訪問後に投稿を行っていました。回覧板については、今年度はすでに3度発行し、ホームメンバーの自己紹介や活動報告を掲載しました。このような広報活動により、Uホームのことをより身近に感じていただけたと思います。回覧板の発行は年4回とし、今年度最後となる次号は、次年度の活動計画を掲載する予定です。

【ホーム運営について】

今年度のホームの組織運営における目標は①昨年度同様、各々に役割を割り振り、活動への参加意欲を上げる（仕事量の偏りがないように）、②ミーティング参加を積極的に促し、ホーム全員で気持ちの良い活動にすることを目指す、の2つでした。①について、Uホームは代替わりの際に係決めを行いました。また、企画ごとに担当者を設けるようにしました。役割があることによる参加意欲の向上は成果として挙げられますが、依然として仕事量に偏りが出てしまったことは課題として挙げられます。来年度はこの企画ごとのリーダー性を強化し、偏りを分散していければと考えています。②について、ミーティング参加率はまだ改善の余地があると感じました。加えて、ホーム定着率も来年度の課題として挙げられます。今後も活動に積極的に参加したくなるようなホームづくりを目指します。

活動を通して学んだこと

私は1年間の活動を通して、チャレンジ精神を学びました。仲間の企画提案に刺激を受け、苦手だった意見の発信も次第に上達しました。さらに、過去の資料がない中で試行錯誤を重ねた経験から、自分で考えて行動する力も育ったと感じています。

穂積 日向（法学部1年）

私は活動を通して、人と人とのつながりの素晴らしさを学ぶことができました。新たな企画、伝統行事、どれもホームメンバーや先生方、地域の方々の協力なしには最後までやり切ることはできませんでした。すべてが一人一人との信頼関係によって出来上がっていると感じました。

市川 智史（教育学部1年）

今年度はホーム長として活動に参加し、ホーム運営の難しさを痛感する1年でした。そして、先生方やホームメンバー、地域の方々に支えられていることを実感する1年でもありました。私は活動を通して、マネジメント能力や協働力を伸ばすことができたと感じています。

増田 美桜（農学部2年）

今年は新たにSL企画に取り組み、つがわ狐の嫁入り行列以外にも阿賀町に多くの人が集まる場があることを知り、新たな発見がありました。私自身は参加の機会が限られていましたが、後輩の責任感や効率的な運営、積極的な連携から組織の成長を感じました。

石山 琴美（農学部3年）

今後に向けて

Uホームは、コロナ禍を経て減ってしまった活動をここ数年で再構築してきました。留学生・高校生を交えた国際交流、SL企画、地域イベントへの参加（キッズサロン、秋のかざふね市）はすべてここ数年で新たに始まった活動です。現在、Uホームは、ホームの目指す方向性を固め、ホームの体制構築をしていかなければならない大事な時期に差し掛かっていると言えます。そのためにはホーム内だけでなく、新たな活動に伴って築いた地域の方々との連携も強化していくことが重要だと考えています。シンポジウムでは、自分たちのこれまでの活動を振り返る中で、まだまだこれからだという思いが強くなりました。今後行っていく具体的な案としては、活動の際の昼食を地域の方と一緒に食べることで交流の機会を増やすことや、企画ごとにイベントリーダーを設置することなどが挙げられました。また、他の阿賀町ホームと連携して共同の広報誌を発行するといったホーム間連携も進めていきたいと考えています。3月に行う地域訪問では、地域の方も交えて今後のホームの方向性をよく話し合い、今年度の反省を生かした次年度活動計画の作成を行います。

活動地域より

今年度を振り返って、いかがでしたか?? 社会福祉協議会やSL関係、観光ガイドなど、活発な方々と一緒に発想を形にしていた印象です。様々な角度からまちづくりの現場をともにしましたね! 新たなUホームの土台が見えてきた気がします。来年度も何が起きるか楽しみです。

阿賀町津川地域 平原 理紗子 様

担当教職員より

今年度はキッズサロンやSL企画など、新しい活動に積極的に挑戦し、地域の方々とつながりをしっかり築くことができました1年でしたね。シンポジウムでいただいたアドバイスをすぐに取り入れる皆さんの素直さやポジティブな姿勢には、本当に感心しました。来年度も楽しみながら活動していきましょう!

国際交流推進課 森口 穂乃花

活動記録 (2025年4月~2026年3月)

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 きつねの嫁入り行列、まちあるき
- 7月 地域活動中間報告会
- 8月 京ノ瀬夏祭り & キッズサロン
- 9月
- 10月 秋のかざふね市
- 11月 津川駅物産販売会 (SL 企画)
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 国際交流 in 津川、地域訪問



8月23日 京ノ瀬夏祭り



11月15日 津川駅物産販売会 (SL 企画)



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 10人、2年生 7人、
3年生 4人、修士以上 1人、
教員 2人、職員 2人

活動地域： 糸魚川市小滝地区

関連団体： 糸魚川市役所
小滝地区地域振興協議会
小滝地区公民館

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



小滝地区の郷土料理笹寿司

9月訪問で地域の方に教わり、学生が作成した笹寿司です。



小滝しおりとせみごろうステッカー
高浪祭りで景品として作成しました。

活動目的と概要

糸魚川市小滝地区は、地質学的価値を認められた自然の見どころが複数あり、そのジオサイトの1つ小滝川ヒスイ峡があるように、限られたヒスイ産出地の中の1か所です。小滝地区やそこを訪れた方との交流を深めることで小滝地区をよく知り、小滝地区の周辺部からの交流人口や認知を増加させることを目的として活動しています。今年度末には活動の集大成としてパンフレットの作成を行い、小滝地区の更なる魅力発信を図ります。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

私たちは今年度、「①糸魚川市街のイベントへの参加、②瓦版を活動ごとに作成し、振り返りに活用する、③ホームメンバー以外の方々を活動に募集する、④軸となる継続して行える活動を見つける」といった目標をもって活動と向き合ってきました。

①については、今年度は具体的な活動を実施できませんでした。しかし、シンポジウムで市役所の方とお話しする機会があり、私たちの案を形にするための足掛かりを得ることが出来たので来年度に向けて準備をしていきます。②は、瓦版を活動ごとに作成したので、来年度の各活動前に目を通して、より良い活動になるように努めていきます。③は、達成することが出来ませんでした。魅力発信のためには必要なことですので来年度には達成できるようにします。④は、現段階で模索している状況ですので、当面の間、これを意識して活動に取り組んでいきます。

【ホーム運営について】

「①キャンパスの異なる学生がいること、また、家からでも気軽に参加できるようにすることからオンラインも活用したハイブリッド型のミーティングを継続する、②活動内容の計画性を上げていく」を目標にホーム運営を行ってきました。

①は、今年度も、オンラインを活用したハイブリッド型のミーティングを継続して行うことができ、長期休業期間中も継続的なミーティングが行えました。②は、ミーティングで、常に先の活動について話し合うことはできましたが、地域への連絡や、こちらの準備が不足してしまうことがあり、地域の方へ大きく負担をかけてしまうことがありました。また、活動の全容を詳細に理解している人がホーム内で偏ってしまうことがあり、負担がうまく分散されなかったため、負担の分散という観点から来年度のホームの体制を構築していきたいと考えています。

活動を通して学んだこと

小滝地区での実習を通し、故郷をより良くしようと尽力する住民の姿に心を動かされました。小さな地域に宿る大きな魅力と強い結びつきを学び、自分も地域づくりの一端を担いながら協力ができたことを誇りに感じました。

藤井 清丸（人文学部 1 年）

私は地域の方々とメールで連絡を取るという役割を担い、目上の人への言葉遣いや、円滑なコミュニケーションを取る術など社会に出る上で必要な作法や力を身に付けることが出来ました。新大祭では出店にあたって会計として金銭を管理し、責任のある仕事を身をもって学べました。

福田 陸真（農学部 2 年）

学部や学年を超えて、教職員や地域の方々を含む多様な立場の人と関わる中で、他者と協働して課題解決に取り組む力やコミュニケーション能力が身につきました。また、活動地域をより良くするために学生として何ができるかを考え、企画や運営に取り組むことで主体性が養われました。

小泉 朱音（法学部 1 年）

地域の方・市役所の方と関わるため、TPO を弁えた伝達能力は然る事ながら、地域の方との他愛もない会話の中には、敷衍して考えれば人生のコツになりうるものがあり、学びが絶えることがありません。活動ごとに成長しているような気がします。

河又 陸人（人文学部 2 年）

今後に向けて

本年度は、年度初めの 5 月訪問で地域の方や市役所の方を交えての活動目標共有、6 月訪問のお祭りで学生企画を行ったこと、9 月訪問で地域の方へ笹寿司と手料理を振る舞ったこと、年度末の 3 月訪問で地域の方々へ本年度の活動報告を行ったことが新たな活動として挙げられます。

来年度は、小滝の知名度アップのために、市街地でのイベントといった大きな企画をしていきたいです。今年度できなかった他ホームとの協力も視野に入れて企画することを考えています。地域の方々を集めて何かを企画するというのは、地域の特性上、移動の面で地域の方に負担が大きくなるので、地区内でバスが走っている日に合わせて行う方向性で計画を進めていきます。また、来年度は新1年生の加入と代替わりがあります。その際のホームの雰囲気づくりや、今年度の反省を繰り返さないための引継ぎを入念に行い、ホームの質を高めていきたいと考えています。早めに計画をして、関係各所に共有することも怠らずに行っていきたいです。

活動地域より

本年度は学生企画の活動があり良かったです。一方で、計画にムラがあったので、その反省を次に生かすように引継ぎをしっかり行ってください。様々な意見を取り入れて企画していくために誰もが話しやすい環境づくりを心掛けてほしいです。また、活動の連絡は早め早めに行っていただけるとこちらも動きやすいです。

小滝地区公民館 上杉 世津子 様

担当教職員より

本年度は、活発に行動を開始し、新大祭にて 2 日間にわたって笹寿司の販売ができ、大学周辺での活動が充実した反面、その後の冬の大雪もあって、地域活動が少なくなりました。不測の事態をあまり気にせず、来年度もみんなでアイデアを出し合い、積極的に活動していきましょう。

教育学部 下保 敏和

活動記録（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月 今年度の活動方針相談
- 6 月 たかなみまつり
地域の要所探索
- 7 月 地域活動中間報告会
- 8 月
- 9 月 笹寿司作り
- 10 月 新大祭出店(笹寿司)
- 11 月
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月
- 3 月 今年度の活動報告



9 月 28 日 笹寿司作りの様子



6 月 29 日 ヒスイ峡での写真

2025 年度のダブルホーム全体イベント



ダブルホーム大説明会 4月19日
新加入生とホームの縁つなぎ、活動参加の
きっかけをつくりました



地域活動中間報告会 7月19日
地域理解とホームの仲を深め、今後の活動に
つなげました



オープンキャンパス「ダブルホーム情報館」 8月7・8日
活動地域やダブルホームの魅力を来場者に伝えました



第17回ダブルホームシンポジウム：12月20日
Home Shift～共に創る、これからのカタチ～



新潟大学ダブルホーム 2025 年度 活動報告書

発行日 2026 年 9 月 30 日
発行者 新潟大学 教育基盤機構 未来教育推進コア
グローバル共修ユニット ダブルホーム支援室

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地
総合教育研究棟 B454

TEL： 025-262-6788
FAX： 025-262-6991
E-mail： home@ge.niigata-u.ac.jp

印刷 富士印刷株式会社



新潟大学ダブルホーム

ソーシャルメディアをチェック！

ダブルホームの活動の様子を配信中！

Homepage



X



Instagram



Facebook



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。